

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-4

< 第19週 > 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.5

< 麻しん >

感染症発生動向調査における第19週の小児科定点からの報告は15例、基幹定点からの成人麻しんの報告は1例であった



病原体情報
P.6-9

インフルエンザウイルス 2005/06シーズン / エンテロウイルス71型 & コクサッキーウイルスA16型 2006年 / 流行性角結膜炎患者から検出されているアデノウイルス 2006年 / 感染性胃腸炎関連ウイルス 2005/06シーズン



速報
P.10-19

腸管出血性大腸菌感染症 2005年(2006年3月31日時点) / 2005/06シーズン後半におけるB型インフルエンザの集団発生 - 山口県 / B型インフルエンザウイルスによる中学校における集団発生 - 埼玉県 / 2006年4～5月におけるB型インフルエンザの地域流行 - 横浜市



海外感染症情報
P.20-22

インドネシアでの鳥インフルエンザ流行状況 / エジプトでの鳥インフルエンザ流行状況 / ジブチでの鳥インフルエンザ流行状況 / アンゴラでのコレラ流行 / スーダン南部でのコレラ流行



感染症の話
P.23

< 今週はお休みです >



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(19週)
P.24-30



19週のデータ
P.31-42



発生動向総覧

2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

< 第19週コメント > 5月18日集計分

全数報告の感染症

注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることとなります。宜しく御理解下さい。

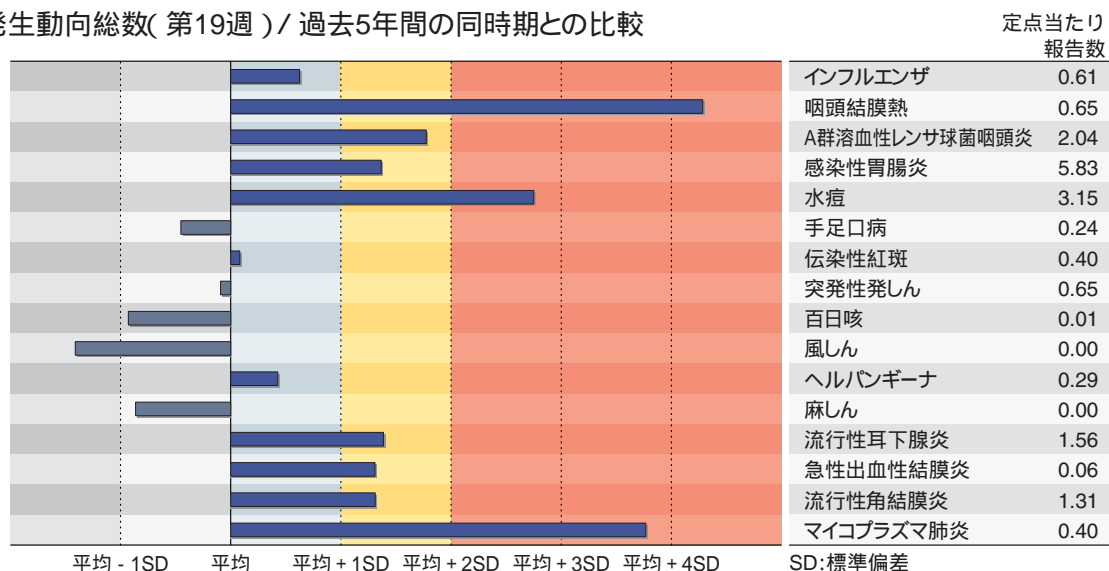
感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: コレラ 3例(感染地域: インド2例、インド/カンボジア/ラオス/タイ/韓国1例)
細菌性赤痢 5例
(感染地域: 国内1例、インド2例、ブータン1例、ニューカレドニア1例)
腸チフス 2例(感染地域: とともにインド)
パラチフス 2例(感染地域: とともにインド)
 - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 30例(うち有症者20例、HUSなし)
感染地域: 国内29例、国外1例(インドネシア/アフガニスタン)
国内の多い感染地: 秋田県(11例)、佐賀県(4例)
年齢群: 10歳未満(9例)、10代(9例)、20代(4例)、30代(2例)、40代(1例)、50代(4例)、80代(1例)
血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(15例)、O157 VT2(5例)、O26 VT1(4例)、O157 VT1(2例)、O111 VT1・VT2(1例)、O121 VT1(1例)、O152 VT1・VT2/O157 VT1・VT2(1例)、その他/不明(1例)
 - 4類感染症: E型肝炎 2例(感染地域: 北海道1例、ネパール1例、感染源: とともに不明)
A型肝炎 5例
(感染地域: 新潟県2例、大阪府1例、広島県1例、フィリピン1例)
つつが虫病 6例(感染地域: 秋田県3例、福島県2例、山形県1例)
デング熱 1例(デング熱_感染地域: タイ)
マラリア 3例 三日熱1例_感染地域: インド
四日熱1例_感染地域: 中央アフリカ
熱帯熱1例_感染地域: ナイジェリア
レジオネラ症 4例(すべて肺炎型)
年齢群: 40代1例、50代1例、60代2例
感染地域: 新潟県1例、長野県1例、山口県1例、中国1例
 - 5類感染症: アメーバ赤痢 10例(腸管アメーバ症6例、腸管外アメーバ症4例)
感染地域: 国内6例、インドネシア1例、ブラジル1例、国外(国不明)1例、国内/国外1例
感染経路: 経口4例、性的接触3例(すべて異性間)、不明3例
ウイルス性肝炎 1例(B型_感染経路: 不明)
クロイツフェルト・ヤコブ病 2例
(孤発性プリオン病(古典型CJD)1例、遺伝性プリオン病(家族性CJD)1例)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4例
(50代1例、70代2例、80代1例、血清群: A群3例、C群1例、うち2例死亡)
後天性免疫不全症候群 15例(無症候9例、AIDS 5例、その他1例)
感染経路: 性的接触13例(異性間4例、同性間8例、異性間・同性間不明1例)、不明2例
感染地域: 国内11例、フィリピン1例、国外(国不明)3例
ジアルジア症 2例(感染地域: インド1例、バングラデシュ1例)
梅毒 8例(早期顕症I期2例、早期顕症II期2例、無症候4例)
破傷風 1例(60代)
- (補)他に報告遅れとして、急性脳炎1例(病原体不明、50代)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例(50代1例、70代1例、血清群: A群1例、C群1例、うち1例死亡)、髄膜炎菌性髄膜炎1例(感染地域: 国内)などの報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第19週) / 過去5年間の同時期との比較



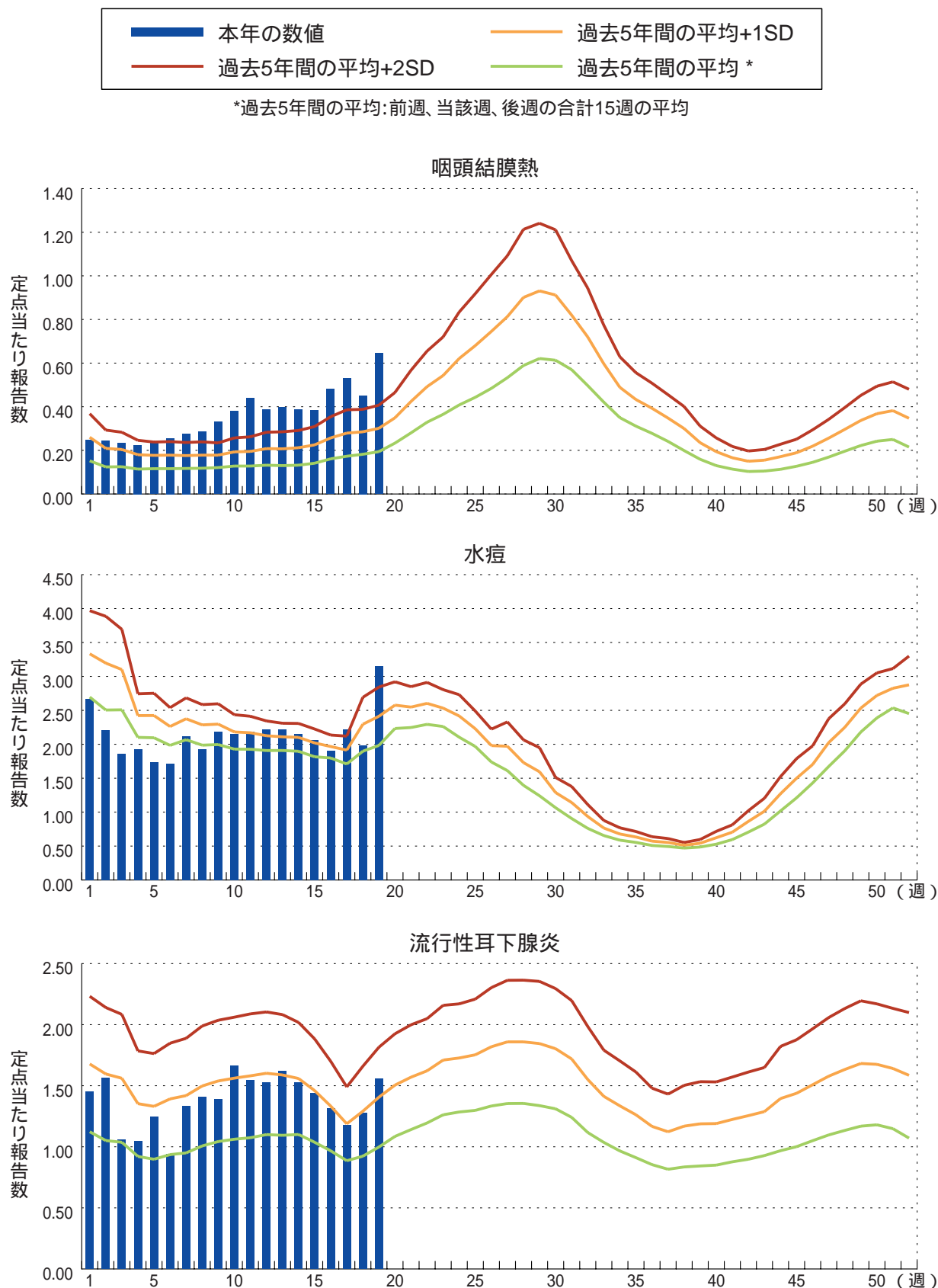
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。

インフルエンザ : 定点当たり報告数は減少した。都道府県別では愛媛県(2.9)、沖縄県(2.2)、岡山県(2.1)、秋田県(2.0)が多い。

小児科定点報告疾患 : RSウイルス感染症は108例の報告があり、報告数は増加した。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の79%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別では福井県(1.5)、岐阜県(1.4)、鹿児島県(1.4)、香川県(1.2)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では新潟県(4.2)、茨城県(3.9)、北海道(3.8)、宮崎県(3.6)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では福井県(11.5)、三重県(10.7)、大分県(9.8)が多い。水痘の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では沖縄県(5.7)、宮崎県(5.7)、佐賀県(5.2)、徳島県(4.6)が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では岐阜県(1.00)、徳島県(1.00)、三重県(0.91)、香川県(0.91)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では島根県(1.09)、福島県(1.06)、青森県(0.95)が多い。百日咳の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では徳島県(0.13)、福島県(0.06)、島根県(0.04)が多い。風しんの定点当たり報告数は微増した。都道府県別では島根県(0.04)、宮崎県(0.03)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加した。都道府県別では鳥取県(1.32)、愛媛県(1.08)、山口県(0.98)、熊本県(0.98)が多い。麻しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では茨城県(0.11)、千葉県(0.04)、島根県(0.04)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では鹿児島県(4.8)、山梨県(4.3)、鳥取県(4.3)が多い。

基幹定点報告疾患 : マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では埼玉県(2.0)、大阪府(1.9)、石川県(1.6)、岡山県(1.6)が多い。成人麻しんは、北海道から1例の報告があった。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2006年第1~19週)
 青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

麻疹

麻疹の感染経路は空気感染(飛沫核感染)、飛沫感染、接触感染と様々であり、その感染力は極めて強い。10日間前後の潜伏期を経て、カタル期(2~4日間)、発疹期(3~5日間)、回復期へと推移するが、感染力の強いカタル期にはまだ特徴的な発疹が出現しないため、麻疹と気付かれず、周囲に感染伝播することがしばしばみられる。また最近では、麻疹ワクチン接種者において修飾麻疹を発症することがしばしば認められるが、この場合は発熱、発疹ともに軽微であることが多く、やはり麻疹とは気付かれずに周囲への感染源となっている場合もありうる。

集団生活施設内で麻疹初発例が発生し、有効な対策がとられない時には、その後それぞれ10日間前後の期間を経て複数例の2次感染、3次感染が出現することがある。そのような場合には施設内流行にとどまらず、周辺地域への流行となる可能性を考慮しなければならない。

感染症発生動向調査における第19週の小児科定点からの麻疹の報告は、茨城県(8例)、千葉県(5例)、愛知県(1例)、島根県(1例)の計15例であり(図)、また基幹定点からの成人麻疹の報告は1例(北海道)であった。

本年4月から茨城県、千葉県の学校施設などでみられている麻疹の地域的な流行は、現在も継続しており、周辺地域あるいは遠隔地への流行の拡大に対しても十分に警戒すべきである。今後とも、麻疹の発生動向には注意深い観察が必要である。

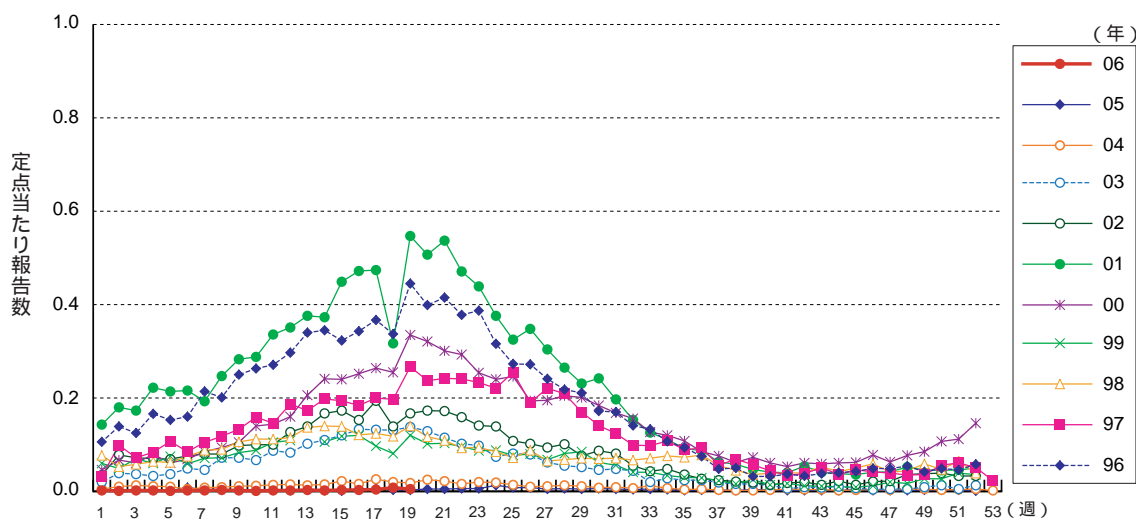


図. 麻疹の年別・週別発生状況(1996 ~ 2006年第19週)



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2006年5月18日現在報告分)

インフルエンザウイルス 2005/06シーズン

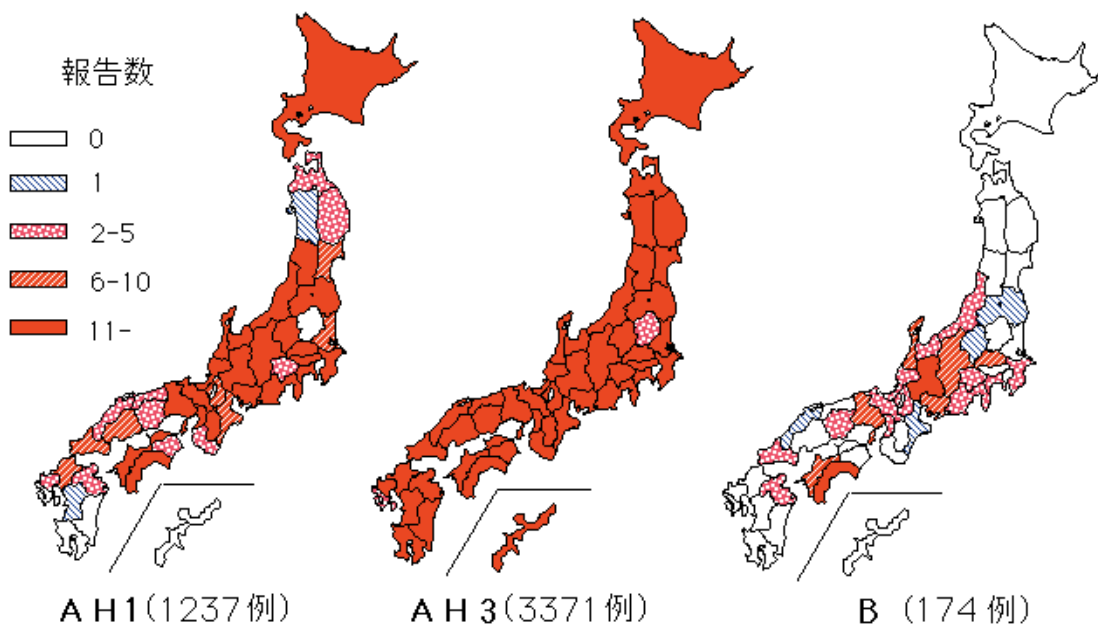
今シーズンにおける第19週までのインフルエンザウイルス分離/検出報告数は、AH3型3,371件、AH1型1,237件、B型174件で、AH3型が7割を占めているが、第9～15週にはAH1型がAH3型の報告を上回っている。

B型は数は少ないものの第1週以降、毎週報告されており、第16週に増加してAH1型、AH3型の報告を上回り、小中学校での集団発生も報告されている(本号16～19ページ速報記事参照)。

AH3型は全都道府県、AH1型は42都道府県、B型は25府県から報告されている。

都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2005/06シーズン

(病原微生物検出情報：2006年5月18日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



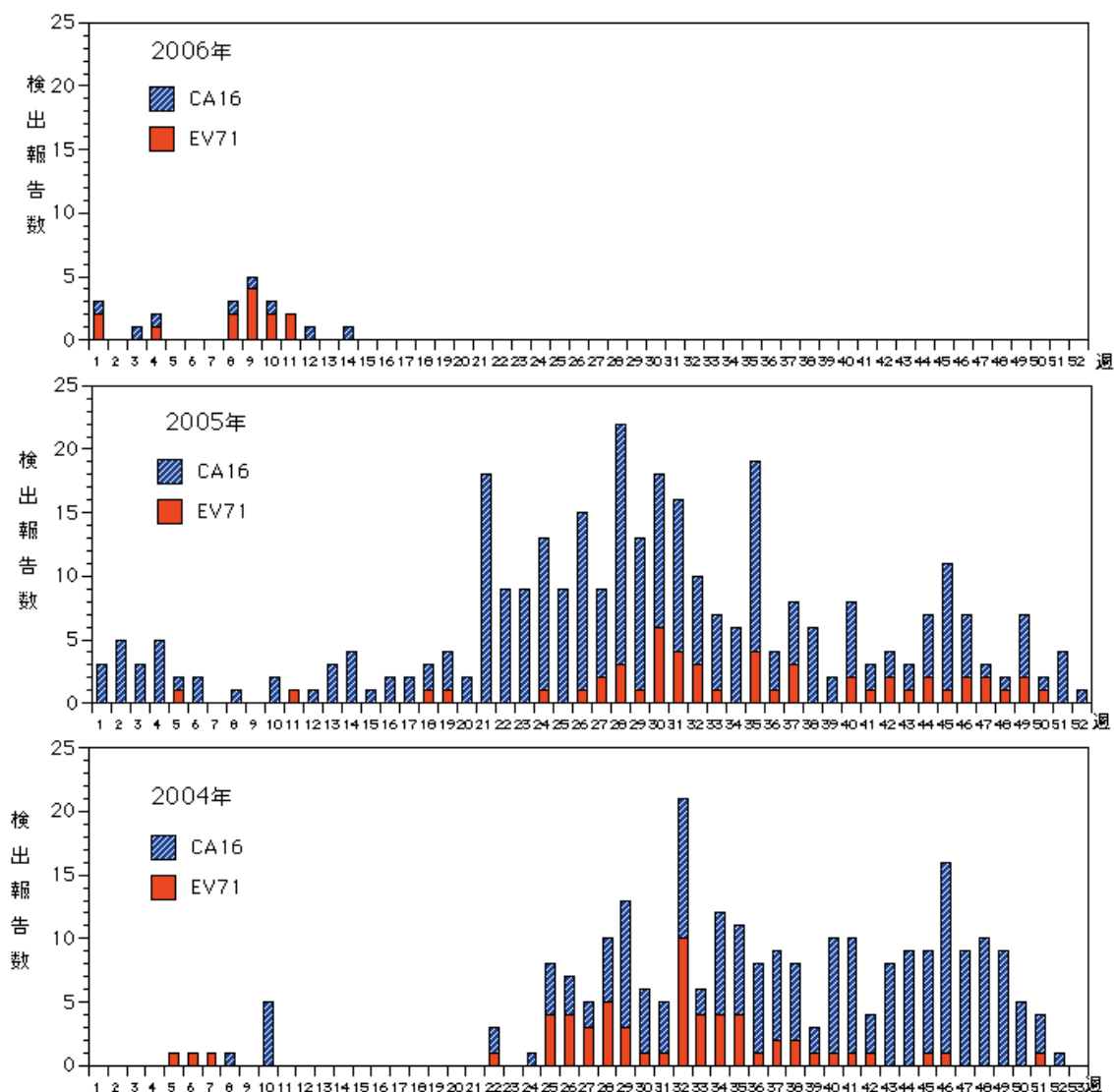
Infectious Agents Surveillance Report

エンテロウイルス71型 & コクサッキーウイルスA16型 2006年

エンテロウイルス71型(EV71)は、第1～11週に13件の検出が報告されている。2004年、2005年の同時期に比べて多く、今後の動向が注目される。コクサッキーウイルスA16型(CA16)は、第1～14週に8件の検出が報告されている。

週別エンテロウイルス71型&コクサッキーA16型分離 - 検出報告数、2004年～2006年

(病原微生物検出情報：2006年5月18日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。

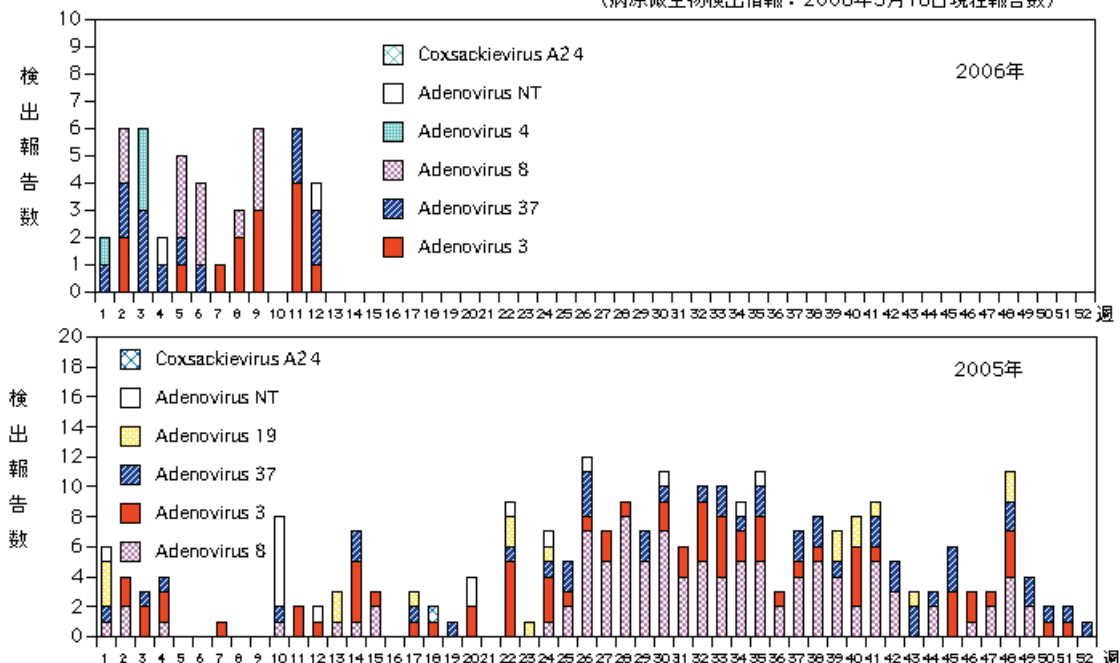


Infectious Agents Surveillance Report

流行性角結膜炎患者から検出されているアデノウイルス 2006年
 2006年はアデノウイルス3型(Ad3)が14件、Ad37が13件、Ad8が12件、Ad4が4件報告されている。2005年の同時期に比べて、Ad8とAd37の報告が多い。

週別流行性角結膜炎患者からのアデノウイルス等分離 - 検出報告数、2005 & 2006年

(病原微生物検出情報：2006年5月18日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



感染性胃腸炎関連ウイルス 2005/06シーズン

ロタウイルスは例年同様、第2週以降増加し、第9週がピークとなっている。ほとんどがA群ロタウイルスで、第17週までに33都府県から計523件の検出が報告されている。

また、C群ロタウイルスが18件(大阪府9件、岩手県5件、広島県2件、新潟県、島根県各1件) 報告されており、保育園(前号11 ~ 12ページ速報記事参照)、小学校(前号12 ~ 13ページ速報記事参照)、福祉・養護施設での集団感染事例も報告されている。

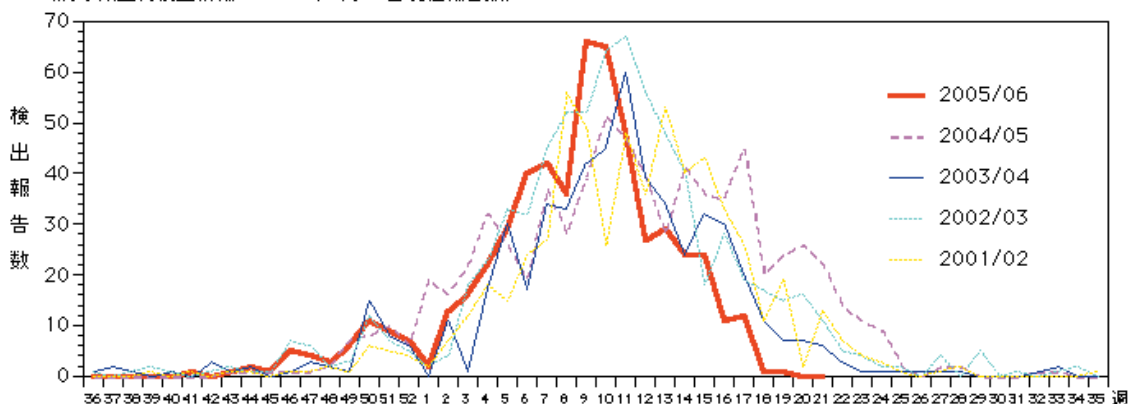
ノロウイルスは前シーズンより早く報告が増加し、2005年第50週をピークに減少しているが、冬季を過ぎても検出が続いている。ほとんどがgenogroup IIで、第19週までに38府県から計2,036件の検出が報告されている。

また、genogroup Iの検出は21府県から計136件、genogroup unknownの検出は116件報告されている。

サポウイルスは、12府県から計60件の検出が報告されている。

週別ロタウイルスの検出報告数、過去4シーズンとの比較 (2001/02 ~ 2005/06)

(病原微生物検出情報：2006年5月18日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。





腸管出血性大腸菌感染症 2005年(2006年3月31日時点)

腸管出血性大腸菌感染症は、1999年4月施行の感染症法に基づく3類感染症として、無症状病原体保有者を含む症例の報告が診断した全ての医師に義務づけられている。無症状病原体保有者は、食品産業従事者の検便によって偶然発見される場合もあるが、探知された患者と食事を共にした者や、接触者の調査などによって発見される場合が多い。

なお、腸管出血性大腸菌感染症の報告は、1996年8月6日に伝染病予防法の元で指定伝染病に規定された時に始まっているが、以下においては、感染症法施行以降の報告の範囲で記述する。

年次推移(図1)

2005年の報告数(診断週が2005年第1～52週のもので、2006年3月31日までに報告されたもの)は3,572例であり、2000～2004年の年間累積報告数(2000年3,642例、2001年4,435例、2002年3,183例、2003年2,999例、2004年3,764例)と比較すると、ほぼ平均的な数であった。また、有症状者が2,414例(68%)、無症状病原体保有者が1,158例(32%)であり、有症状者の比率は2004年とほぼ同値で、2003年以前(54～66%)と比較するとやや大きかった。

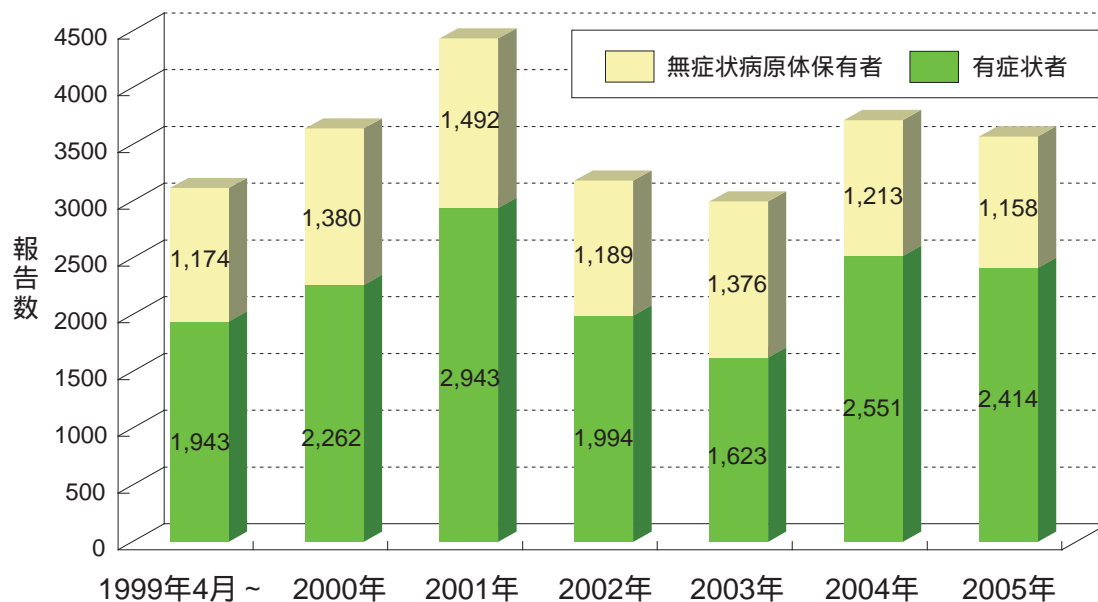


図1. 腸管出血性大腸菌感染症の年別・症状別発生状況

推定感染地域

推定感染地域を国内とするものが3,380例(94%)、国外とするものが27例(1%)、不明が165例(5%)であった。国外感染の占める割合は、2003年にはオーストラリアへの修学旅行、2004年には韓国への修学旅行2件に伴う集団発生が影響し、それぞれ報告数の2%、4%を占めたが、2005年は国外感染の大きな集団発生は認められず、1999~2002年と同様に1%であった。推定感染地域を国外とする27例の推定感染国は、オーストラリア5例(うち2例は修学旅行)、韓国3例、インドネシア3例、ベトナム2例で、その他に米国、ハワイ、グアム、タイ、フィリピン、トルコ、ケニア、ニュージーランド、ペルー、メキシコ、エジプト各1例、国不明3例であった。インドネシアでの感染は毎年報告があり、韓国での感染も2003年を除き、毎年報告されている。

週別推移(季節性)(図2)

例年、最大のピークは夏季にみられる。2005年においても7月中旬から9月上旬にかけて報告数が多かった。

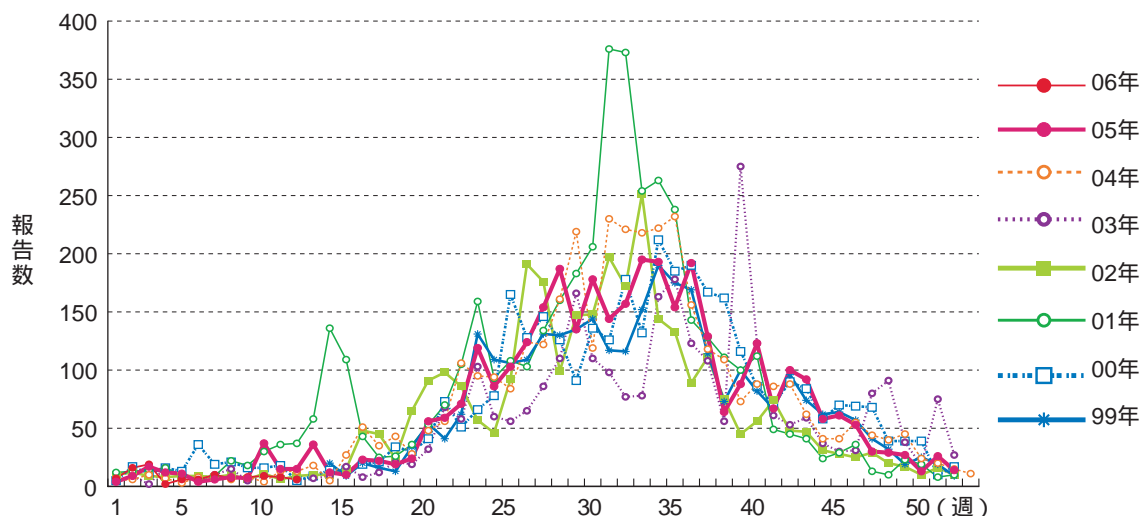


図2. 腸管出血性大腸菌感染症の年別・週別発生状況

都道府県(必ずしも感染した都道府県を示すものでない)(図3)

都道府県別にみると、大阪府(272例)、東京都(238例)、北海道(188例)、愛知県(182例)、神奈川県(167例)が多く、12の都道府県で年間累積報告数100例を超えた。また、人口10万人当たりの罹患率でみると、宮崎県(9.01 : 報告数105例)が最も多く、次いで大分県(8.69 : 報告数105例)、島根県(8.60 : 報告数64例)が多かった。

推定感染地域が国内の3,380例に限ってみると、大阪府(261例)、東京都(218例)、北海道(185例)、愛知県(170例)、兵庫県(156例)が多く、人口10万人当たりでの罹患率でみると、宮崎県(8.72)、大分県(8.61)、島根県(8.42)の順であった。

主な集団発生としては、北海道の介護保険施設(42例)、宮城県の保育施設関連(43例)、香川県の2カ所の老人福祉施設関連(43例)、大分県の知的障害児施設・知的障害者更正施設・知的障害者授産施設関連(59例)などでみられた。

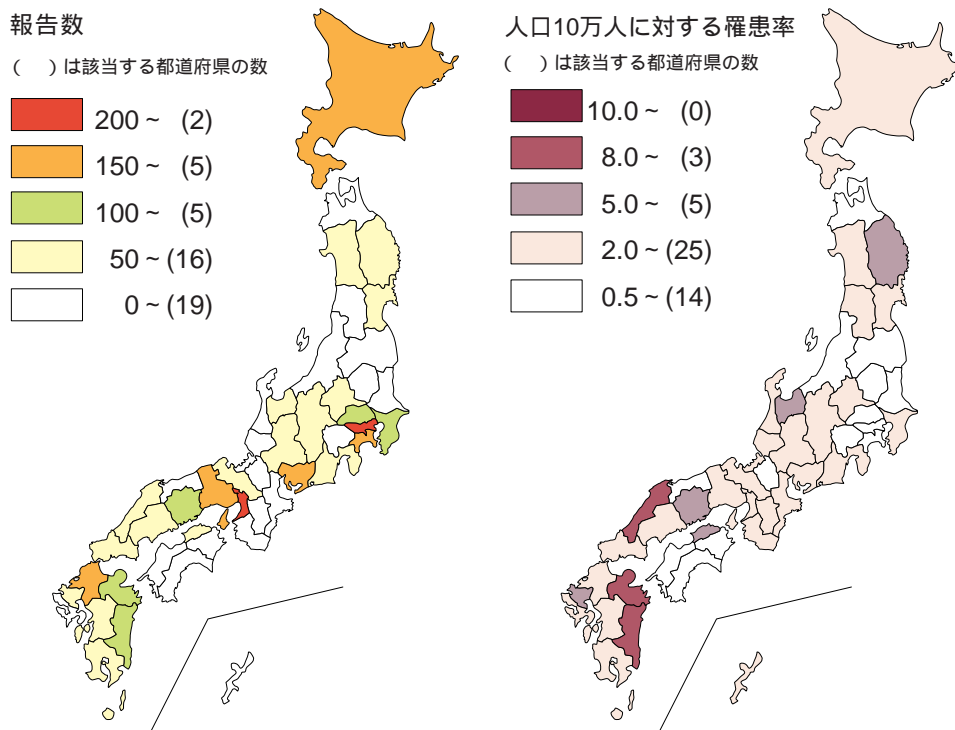


図3. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告数と罹患率(2005年)

性・年齢(図4)

性別では男性1,639例、女性1,933例で、年齢は0 ~ 97歳(中央値18歳)であった。

推定感染地域が国内の3,380例に限ると、性別では男性1,551例、女性1,829例であった。年齢は0 ~ 97歳(中央値17歳)であり、年齢群別にみると、10歳未満1,366例(0 ~ 4歳899例、5 ~ 9歳467例)、10代403例、20代471例、30代364例、40代179例、50代206例、60代171例、70代120例、80代74例、90代26例であった。20歳未満では男性がやや多いが、20歳以上では女性が多くなっており、年齢中央値は男性11歳、女性18歳で、2004年と同様の性差が認められた。症状の有無でみると、男女ともに30代、40代では無症状病原体保有者が、それ以外では有症状者が多かった。有症状者の占める割合は特に若年者と高齢者に高く、10歳未満と10代では約80%を占め、60代では約60%、70歳以上では約75%を占めた。

推定感染地域が国外の27例に限ると、男性12例、女性15例であった。年齢は1 ~ 68歳(中央値25歳)であり、年齢群別にみると10歳未満5例(0 ~ 4歳3例、5 ~ 9歳2例)、10代5例、20代6例、30代1例、40代4例、50代4例、60代2例であった。

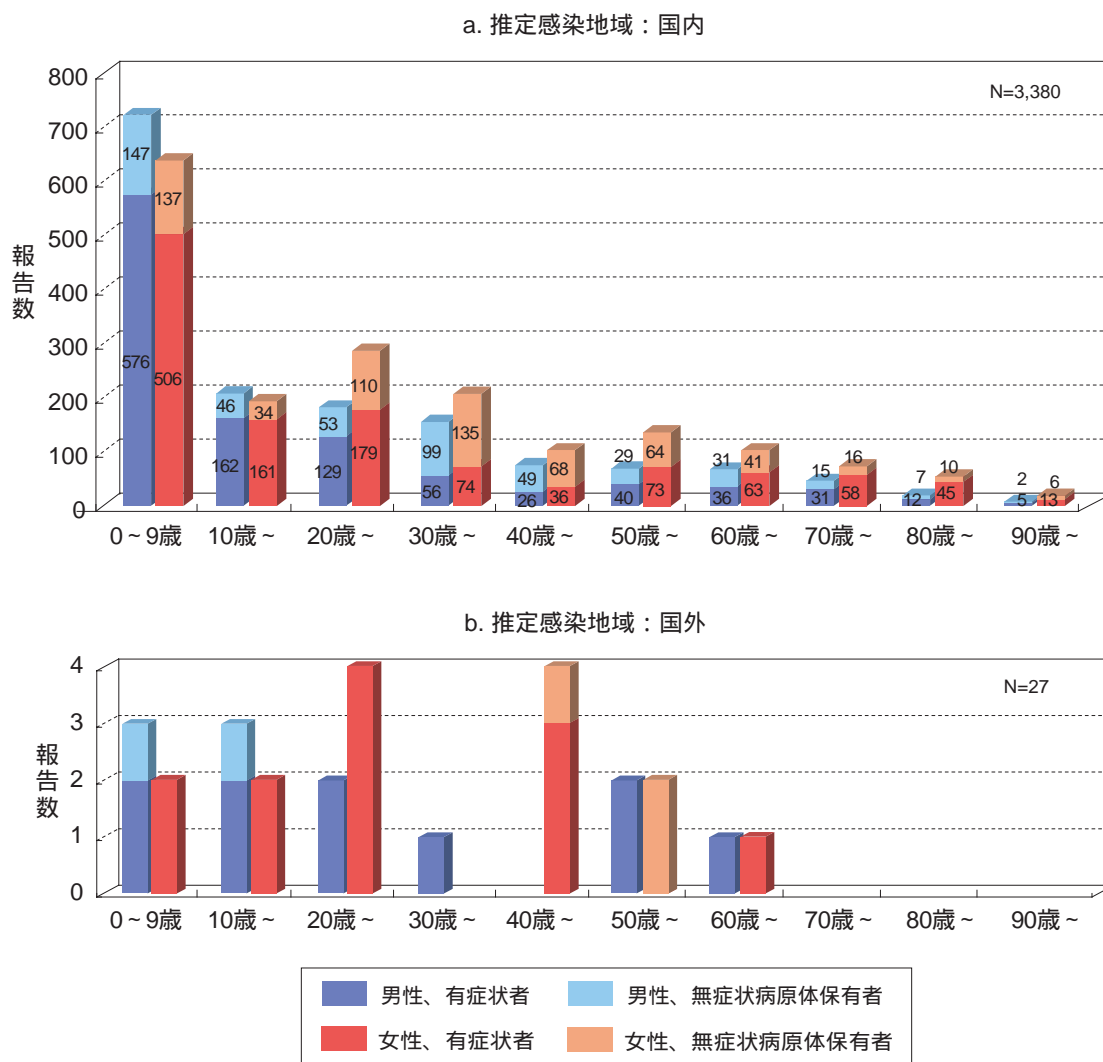


図4. 腸管出血性大腸菌感染症の性別・年齢群別・症状別報告数(2005年)

血清型・毒素型(表)

血清型では、O157 2,562例(約72%)、O26 619例(約17%)、O111 103例(約3%)の順で、これは従来と同様であった。毒素型も加えると、O157 VT1・VT2が1,497例と最も多く、次いでO157 VT2が851例、O26 VT1が564例(他の型との重複感染例3例を含む)であった。

表. 腸管出血性大腸菌感染症の報告症例における原因菌の血清型と毒素型 2005年

血清型	毒素型	例 数		
		有症状者	無症状病原体保有者	合計
O157	VT1	79 (65)	33 (26)	112 (91)
	VT2	536 (511)	315 (293)	851 (804)
	VT1・VT2	1,085 (1,034)	412 (396)	1,497 (1,430)
	VT	88 (81)	14 (11)	102 (92)
	小計	1,788 (1,691)	774 (726)	2,562 (2,417)
O26	VT1	354 (244)	207 (204)	561 (548)
	VT2	3 (3)	0 (0)	3 (3)
	VT1・VT2	22 (21)	9 (9)	31 (30)
	VT	19 (18)	5 (4)	24 (22)
	小計	398 (286)	221 (217)	619 (603)
O111	VT1	33 (28)	10 (8)	43 (36)
	VT2	2 (2)	3 (2)	5 (4)
	VT1・VT2	29 (27)	25 (25)	54 (52)
	VT	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	小計	65 (58)	38 (35)	103 (93)
その他	O1 VT1	2 (2)	1 (1)	3 (3)
	O1 VT	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O8 VT1	0 (0)	2 (2)	2 (2)
	O8 VT2	2 (1)	1 (1)	3 (2)
	O18 VT2	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	O18 VT1・VT2	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O28 VT2	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	O44 VT1・VT2	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	O63 VT2	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O71 VT1	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	O81 VT2	1 (1)	1 (1)	2 (2)
	O84 VT1	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	O91 VT1	1 (1)	12 (12)	13 (13)
	O91 VT1・VT2	1 (1)	5 (5)	6 (6)
	O103 VT1	11 (10)	8 (8)	19 (18)
	O115 VT1	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	O119 VT1	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	O121 VT2	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O121 VT	13 (12)	5 (5)	18 (17)
	O126 VT1・VT2	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O128 VT1	0 (0)	2 (2)	2 (2)
	O128 VT2	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	O128 VT1・VT2	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	O145 VT1	4 (3)	0 (0)	4 (3)
	O145 VT2	4 (4)	1 (1)	5 (5)
	O146 VT1	0 (0)	1 (0)	1 (0)
	O146 VT2	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	O152 VT	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O164 VT1	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O165 VT2	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O165 VT1・VT2	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	不明 VT1	23 (20)	29 (28)	52 (48)
不明 VT2	36 (35)	28 (27)	64 (62)	
不明 VT1・VT2	40 (33)	15 (14)	55 (47)	
不明 VT	7 (6)	6 (6)	13 (12)	
複数検出	O26 VT1+O26 VT1・VT2	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	O26 VT1+O111 VT1	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	O26 VT1+O165 VT1・VT2	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	小計	163 (146)	125 (121)	288 (267)
総計		2,414 (2,181)	1,158 (1,099)	3,572 (3,380)

() 内は推定感染地域を国内とする報告の再掲

重症例・死亡例

HUSは42例で報告され、有症状者の1.7%に発生していた。性別では男性13例、女性29例であった。年齢は1～91歳(中央値5歳)で、年齢群別では10歳未満が26例(5歳未満は21例)〔有症状者の2.3%〕と最も多く、10代3例(同0.9%)、20代1例(同0.3%)、50代1例(同0.8%)、60代3例(同2.8%)、70代3例(同3.3%)、80代4例(同6.9%)、90代1例(同5.6%)であった。この様に小児だけでなく、高齢者においてもHUSがみられている。血清型・毒素型ではO157 VT1・VT2 17例、O157 VT2 18例、O157毒素型不明2例で、O157が全体の88%を占め、他はO111 VT2 1例、O111 VT1・VT2 1例、O121 VT2 2例、血清型不明VT1・VT2 1例であった。

死亡例の把握は、届け出時点で記載されていたか、または届け出後に追加で報告されたものに限られるが、10例みられており、感染症法施行以降最も多かった。うち4例がHUS発症者であった。年齢は4歳1例、70代2例、80代4例、90代3例と高齢者に多かった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 9例、O157 VT2 1例であった。

おわりに

感染症法施行以降の年間累積報告数を2000年以降の6年間で比較すると、2005年は4番目の報告数であった。相変わらず各地で保育施設での集団感染事例が発生した他に、高齢者や知的障害者に関連した福祉施設での集団発生もみられた。

また、65歳以上の占める割合(8.5%)が過去最高(1999年5.6%、2000年7.9%、2001年7.6%、2002年7.9%、2003年5.5%、2004年4.2%)であり、死亡者の報告も最多であった(1999年1例、2000年2例、2001年4例、2002年4例、2003年2例、2004年5例)。

本疾患は依然として小児や高齢者において、HUSなどの重症例や死亡例がみられるので、今後も予防策の徹底に努める必要がある。

なお、死亡例やHUSの合併については、届け出時点以降での発生が十分反映されていない可能性があるため、このような発生があった場合には報告の修正をお願いしている。

2005/06シーズン後半におけるB型インフルエンザの集団発生 - 山口県

山口県における2005/06シーズンのインフルエンザの流行は、感染症発生動向調査における定点当たり患者数が、ピーク時の第3週で39人程度の中規模のものであり、また、3月中旬(第11週)には定点当たり患者数が1以下になり、流行の終息が早いと思われた。一方、ウイルスの分離状況では、年末から継続的にAH3型が44株分離されるとともに、年を越してからは、山口県では4年ぶりとなるAH1型が散発的に6株分離されたが、B型の分離は見られなかった。

このような流行状況の中、4月25日になって、県東部の小学校の2学年3クラスにおいて、110人中40人の児童が発熱、頭痛、咳等のインフルエンザ様症状を示し、22人が欠席したことから、学級閉鎖の措置がとられるとの連絡があった。そして、ウイルス分離同定検査のため管轄保健所より、保護者の了承を得て採取したうがい液8検体が当センターに搬入された。

MDCK細胞に初代接種後4日目には、8検体のうち3検体で明瞭なCPEが観察され、回収した培養上清はいずれも、0.75%モルモット赤血球で256HAの高いHA価を示したことから、これらの培養上清について、国立感染症研究所分与の2005/06シーズン用抗血清を用いてHI試験を実施した。その結果、3検体すべてが、B/Brisbane/32/2002抗血清(ホモ価640)に1,280のHI価を示したが、A/New Caledonia/20/99(H1N1)(同640)、A/New York/55/2004(H3N2)(同1,280)およびB/Shanghai(上海)/361/2002(同640)の各抗血清に対してはいずれも< 10のHI価であり、ビクトリア系統のB型インフルエンザウイルスと同定された。

山口県では5月1日にも、同じく県東部の中学校でインフルエンザ様疾患の集団発生により、1学年の学年閉鎖が実施された。また、医療機関でのインフルエンザの定点当たり患者数も4月最終週(第17週)に0.7人まで増加したが、幸いなことに大型連休に入ったこともあり、流行は再び終息に向かっていているようである。

このたびの事例は、インフルエンザの流行がいったん終息したと思われた後での集団発生事例であり、近年では見られなかった流行のパターンであった。このシーズン後半の流行は、2005/06シーズンの主流株であるAH3型やAH1型によるものではなく、ピーク時に全く分離されなかったB型ウイルスによるものであることが確認された。また、分離株の抗原性は、ここ2年間のB型の主流であった山形系統株ではなく、ビクトリア系統に属する株であったことから、来シーズン(2006/07)のB型インフルエンザの流行の動向に注意する必要があると考えられる。

山口県環境保健研究センター

戸田昌一 岡本玲子 西田知子 中尾利器 吉川正俊 宮村恵宣

(IASR 2006年6月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

B型インフルエンザウイルスによる中学校における集団発生 - 埼玉県

埼玉県における2005/06シーズンの定点当たりインフルエンザ報告患者数は、2006年第5週にピーク(45.13人)を迎えた後に暫減し、第9週には定点当たり患者数が10人未満となった。インフルエンザウイルスは2005年第49週 ~ 2006年第11週の期間に、A/H1N1型22株、A/H3N2型50株、B型(ビクトリア系統)4株が分離された。第12週以降は分離が無く、県内のインフルエンザ流行は終息に向かっていると思われたが、第16 ~ 17週に県内の1中学校において、B型インフルエンザウイルスによる集団発生が認められたので、その概要を報告する。

当該中学校は在籍者297人、各学年3クラスの規模である。第16週に入って欠席者が目立ち始め、週末には46人、第17週の月曜日には61人に達したため、その翌日から2日間の学校閉鎖の措置がとられた。

4月26 ~ 28日に校医により、患者3名からウイルス検査用の鼻汁検体が採取され、衛生研究所に搬入された。3検体ともMDCK細胞において接種3 ~ 4日後に明瞭なCPEが認められ、赤血球凝集価は1:128に達した(0.5%七面鳥および0.75%モルモット赤血球)。これらの培養上清を用いて、国立感染症研究所インフルエンザウイルス室から配布された2005/06シーズン用同定キットにより、赤血球凝集抑制試験を実施したところ、3検体ともA/New Caledonia/20/99(ホモ価320)、A/New York/55/2004(ホモ価1,280)、およびB/Shanghai(上海)361/2002(ホモ価640)の各抗血清に対してHI価 < 10、B/Brisbane/32/2002(ホモ価5,120)抗血清に対してHI価2,560を示し、ビクトリア系統のB型インフルエンザウイルスであることが確認された。

なお、第16 ~ 17週に県内別地区で採取された散发例の検体からも、3株のビクトリア系統B型インフルエンザウイルスが分離されている。

近年、いわゆる非流行期におけるインフルエンザの小流行が各地で報告されている(病原微生物検出情報 IASR 26: 243-245, および302-304, 2005)。非流行期のインフルエンザウイルスの動向は、次のシーズンの流行予測のうえで重要なデータとなるため、今後も慎重に監視することが重要である。

埼玉県衛生研究所ウイルス担当

島田慎一 河橋幸恵 篠原美千代 内田和江 土井りえ 河本恭子 宇野優香
清水美穂 菊池好則

埼玉県鴻巣保健所保健予防推進担当

福島裕美 西澤 勉 野村浩代 佐藤夕子 半田さと子

(IASR 2006年6月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

2006年4～5月におけるB型インフルエンザの地域流行 - 横浜市

横浜市内において2006年4月中旬以降5月初旬にかけて、B型インフルエンザの地域流行がみられ、医療機関から搬入された3名の患者の咽頭ぬぐい液から、B型インフルエンザウイルスが分離されたので報告する。

インフルエンザ患者発生状況：2005/06シーズンの横浜市内定点医療機関からの患者報告数は、第5週に定点当たり34.2とピークを迎えた後は減少し、第15週に0.13となった。しかし、第16週0.30、第17週は0.32とわずかな上昇が認められた。定点当たり1.0を超える発生がみられた区は、第16週では西、旭、都筑、第17週では西、都筑、第18週では青葉であった。このうち西の8例と旭の3例、青葉の3例は医療機関において、インフルエンザ迅速診断キットでB型と判定された。また、第16週には港北区の中学校1年生クラスで集団かぜの発生があり、迅速診断キットでB型と診断された検体が当衛生研究所に搬入された。

ウイルスが分離された患者：第16週の西、第19週の磯子の医療機関から搬入された3検体からB型インフルエンザウイルスが分離された。西の2症例は同一中学校の13歳3カ月と14歳10カ月の男子で、4月20日に迅速診断キットでB型と診断され、検体が採取された。磯子の1症例は12歳3カ月の女子で、5月8日に感染性胃腸炎と診断され、検体が採取された。臨床症状としては、発熱がそれぞれ39.8、39、40で、感染性胃腸炎と診断された患者は、その他に嘔吐・下痢症状があった。

分離ウイルスのHI試験結果：分離株について、国立感染症研究所配布の2005/06シーズン用インフルエンザウイルスキットを用いたHI試験(0.7%のモルモット赤血球液を使用)を行った結果、A/New Caledonia/20/99(ホモ価640)、A/New York/55/2004(ホモ価1,280)、B/Shanghai(上海)361/2002(ホモ価1,280)に対しては<10であったが、B/Brisbane/32/2002(ホモ価2,560)に対しては2,560～5,120のHI価を示したことから、Victoria系統のB型ウイルスであることが明らかになった。

HA1領域の遺伝子解析結果：分離された2株[B/Yokohama(横浜)1/2006、B/Yokohama(横浜)2/2006]のHA1領域についてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、分子系統樹解析を行った。B/Brisbane/32/2002のHA1遺伝子塩基配列との比較では、1,041bp中13bpが異なっていたが(相同性98.8%)、2006/07シーズンワクチン株としてWHOが推奨しているB/Malaysia/2506/2004(WHO, WER, 81, No. 9, 82-86, 2006、および病原微生物検出情報IASR 27: 126, 2006)との間では4bpのみの違いで(相同性99.6%)同じクラスターを形成していた。またアミノ酸配列においても、B/Brisbane/32/2002とでは347カ所中4カ所で置換が認められたのに対し、B/Malaysia/2506/2004に対しては1カ所のみの置換で、この株に極めて近縁であることが判明した。

今回分離されたB型ウイルスは、昨シーズン流行した山形系統のウイルスとは異なるVictoria系統のウイルスで、横浜市では2002/03シーズン以降3シーズンぶりの分離であった。今シーズンの初めには、隣接する川崎市(病原微生物検出情報IASR 27: 12-13, 2006)や高知県(病原微生物検出情報IASR 27: 103-104, 2006)からVictoria系統のB型ウイルス分離報告があったが、流行終息を控えた第17週には山口県でも、同系統のウイルスによる集団発生が報告されている(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3165.html>)。横浜市内の定点当たり報告数は第18週で0.19、

第19週で0.07と減少に転じているが、2001年の5～6月の非流行期にVictoria系統のウイルスによる患者発生が各地で報告された例もあることから(IASR 22: 167-169, 2001) 今後も注意が必要と思われる。

横浜市衛生研究所

川上千春 百木智子 七種美和子 野口有三 佐々木一也(検査研究課)
糀谷敬子 田代好子 岩田眞美(感染症・疫学情報課)
鳥羽和憲

(IASR 2006年6月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

インドネシアでの鳥インフルエンザ流行状況

WHO/EPR 2006年5月18日

2006年5月18日に、インドネシア保健省は、新たにH5N1型鳥インフルエンザウイルス感染患者7名を確定した。そのうち6名が死亡している。

死亡者の1人は、East Java州Surabaya市出身の38歳女性であった。2006年5月2日に発症して、7日に入院し、5月12日に死亡した。この患者は、East Java州から報告された最初の患者である。

残りの患者6名は、North Sumatra州Karo地区にあるKubu Sembelang村出身である。6名全員が大家族の一員であり、1名を除いて全員が隣り合った住居に住んでいた。

このKubu Sembelang村での事例に関連した7例目の患者が、同家族に属する37歳女性である。この女性は4月27日に発症し、5月4日に呼吸器障害で死亡した。埋葬前には検体採取は行われず、死因は確定されていない。しかしこの患者が、今回の家族内集団発生事例の初発患者であると考えられる。

スマトラ島で発生した確定患者6名には、死亡した女性の息子2名(15歳と17歳、それぞれ、5月9日と12日に死亡)が含まれる。初発患者の28歳になる妹は、5月10日に死亡した。この妹には18カ月になる娘がいたが、5月14日に死亡している。現在も生存中の5例目の確定患者は、25歳になる初発患者の弟である。6例目の確定患者は、10歳になる初発患者の甥である。この少年は5月13日に死亡した。

その他に同家族の1名が入院したが、診断検査が陰性であったこと、および臨床症状がH5N1型ウイルス感染と合致しなかったことから、除外されている。

今回の事例は時間的・空間的に密接に関連が認められ、これまでに世界中から報告された中で最も規模の大きな集団発生であり、インドネシアの保健省および農業省とWHOの疫学者らによって、慎重に調査がなされている。初発患者の感染源は現在調査中であるが、感染した家禽、あるいはその排泄物によって汚染された環境への曝露が最も可能性が高いとされている。

初発患者より後の患者での感染源も、確定されていない。複数の仮説について調査が行われている。住居がお互いに近接していたことに加え、今回の事例の患者らは、4月29日前後に行われた家族集會に参加したことが確認されている。患者らは、未だ確定されていない共通した(汚染された)環境への曝露によって感染した可能性がある。現時点では、限定的なヒト・ヒト感染伝播の可能性も完全には除外できていない。

現地で調査に当たっている担当者は、この大家族以外に感染が拡大していることは確認していない。医療関係者や患者と密接な接触のあった人々に、インフルエンザ様症状は認められていない。ヒト・ヒト感染伝播が発生したとしても、効率的でも持続的でもない。

今回の新規確定患者発生により、インドネシア国内の累積患者数は40名となった。そのうち31名が死亡している。

WHO/EPR 2006年5月19日

インドネシア保健省は、新たにH5N1型鳥インフルエンザウイルス感染患者1名を確定した。患者は東ジャカルタBekas出身の12歳少年で、5月7日に入院し、5月13日に死亡した。感染源の調査が行われている。インドネシアの感染患者は合計41人で、そのうち32人が死亡している。

エジプトでの鳥インフルエンザ流行状況

WHO/EPR 2006年5月18日

2006年5月18日時点で、エジプト保健省は、同国で14例目となるH5N1型鳥インフルエンザウイルス感染患者を確定した。患者はAl Minya県出身の75歳女性で、2006年5月11日に発症し、5月18日に死亡した。

エジプトで発生した他の全ての患者と同様に、この患者の感染も発病した家禽への曝露に関連づけられている。エジプト国内の患者14名中、6名が死亡している。

ジブチでの鳥インフルエンザ流行状況

WHO/EPR 2006年5月12日

ジブチ保健省は、同国で初のH5N1型鳥インフルエンザ感染患者を確定した。患者は2歳の女児で、Arta地区にある辺境の小村出身である。2006年4月23日に発症し、現在も症状が続いているが、病状は安定している。

5月10日に、カイロにある米国海軍医学研究部3(NAMRU-3)によって実施された3種類の検査により、患児のH5N1型ウイルス感染が確定された。患児の3人の兄弟も感染疑いで検査中であり、治療を受けている。検体が採取され、解析のためにNAMRU-3に送付された。ジブチの保健当局は、2006年4月始めに起こった小規模なニワトリの死亡事例報告を受けて、ヒト感染患者のサーベイランスを開始した。NAMRU-3はニワトリ3羽の検体についても、H5N1型鳥インフルエンザ感染を確定した。

ジブチでは新たな患者および動物症例のサーベイランスが進行中であるが、疫学および診断検査能力不足のために、効率的な実施が困難となっている。同時に流行しているデング熱が、H5N1型鳥インフルエンザ感染を含む、急激な発症を示す他の熱性疾患をマスクする可能性があり、ヒト患者の調査は一層困難さが増している。

動物での感染状況は十分に把握されていない。同国の人口の大部分が首都ジブチ地区に集中しており、現地では多くの家庭が少数の家禽を飼育している。同国の他の地区での家禽生産はわずかである。これまでに、家禽群でその多くが死亡している事態は見つかっていない。

WHOは保健省からの要請に応じ、今回の感染事例に対する同国の調査、および対策への緊急支援を調整している。

アンゴラでのコレラ流行

WHO/EPR 2006年5月10日

2006年2月19日から5月8日までの間に、アンゴラで、コレラによる死亡者1,156名と総計30,612名の患者が報告された。これらの患者のうち50%がLuanda州、25%がBenguela州、10%がMalanjeおよびKuanza Norte州で発生した。さらに他の5州では3名から155名の患者が発生し、致死率は1%から33%であった。

BenguelaおよびBengo州での流行のピークは3週間前であった。しかしながら他の州では、流行は始まったばかりか、いまだ蔓延中である。保健省はLuanda州での流行対策の企画、調整のために、WHO、UNICEF、国際赤十字・赤新月社連盟、国境なき医師団(スペイン、オランダ、フランス、スイス)、Médécins du Mondeからなる州対策本部を設置した。

WHOは対策本部を援助するとともに、迅速な対応のために7トンの緊急物資を供給した。さらに制圧活動の援助として、疫学者、公衆衛生専門家、飲料水衛生設備技師を現地に派遣した。飲料水及び衛生状態が良くないことから、特に都市部、Luanda州では制圧活動が難航している。

WHO/EPR 2006年5月18日

2006年5月16日現在、アンゴラで、コレラによる死亡者1,298名、患者35,775名が報告された。直近の24時間以内には、31名の死亡者を含む546名の新たな患者が報告された。

感染は18州のうち11州に広がっている。患者のうち51%がLuanda州、21%がBenguela州で発生した。致死率を州ごとに分析したところ、1%から30%の範囲である。最新の傾向では、Luanda州とBenguela州では減少を示しているが、まだ1日におよそ600名の患者が報告されている。

国立公衆衛生研究所の検査で、13検体中9検体でO1コレラ菌稲葉型が確認された。

スーダン南部でのコレラ流行

WHO/EPR 2006年5月17日

2006年5月5日現在、スーダン南部で、コレラによる死亡者が516名、患者が13,852名報告されている。この流行は1月末にYeiで始まった。10州のうち6州で患者が確認されている。現在の流行の中心はEast Equatoria州である。コレラ流行への対応を調整するために、主要なパートナー（WHO、国連関連機関、および非政府組織）を含む対策本部が、スーダン南部の保健部を支援している。



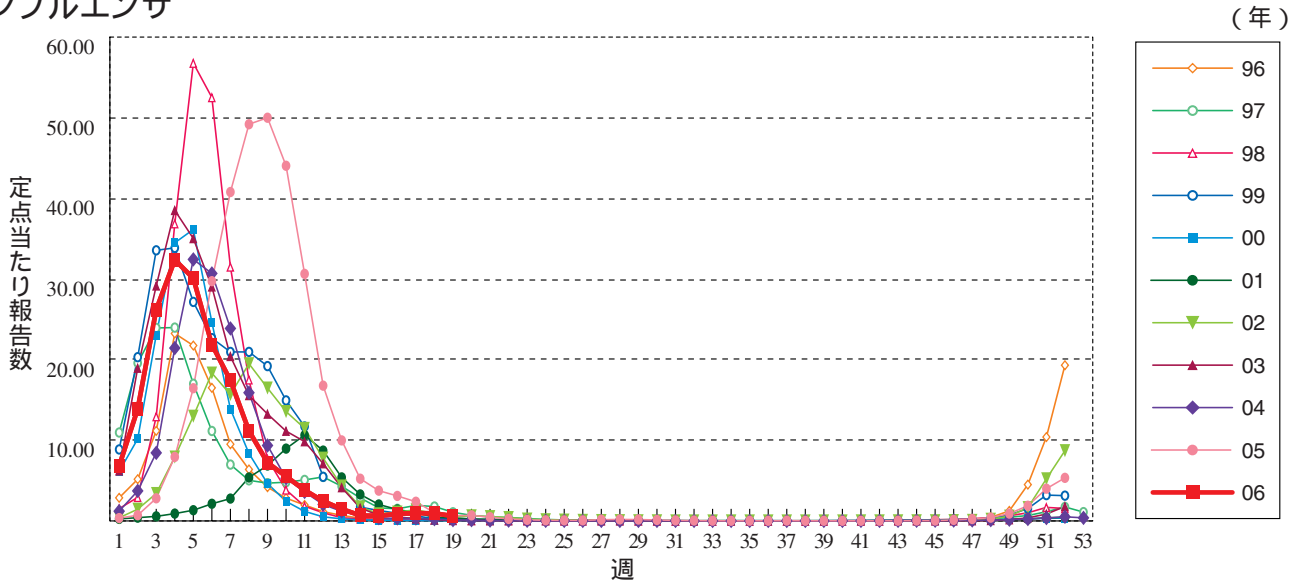
感染症の話

今週はお休みさせていただきます。
「感染症の話」過去の掲載分については
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/index.html>
でご覧いただけます。

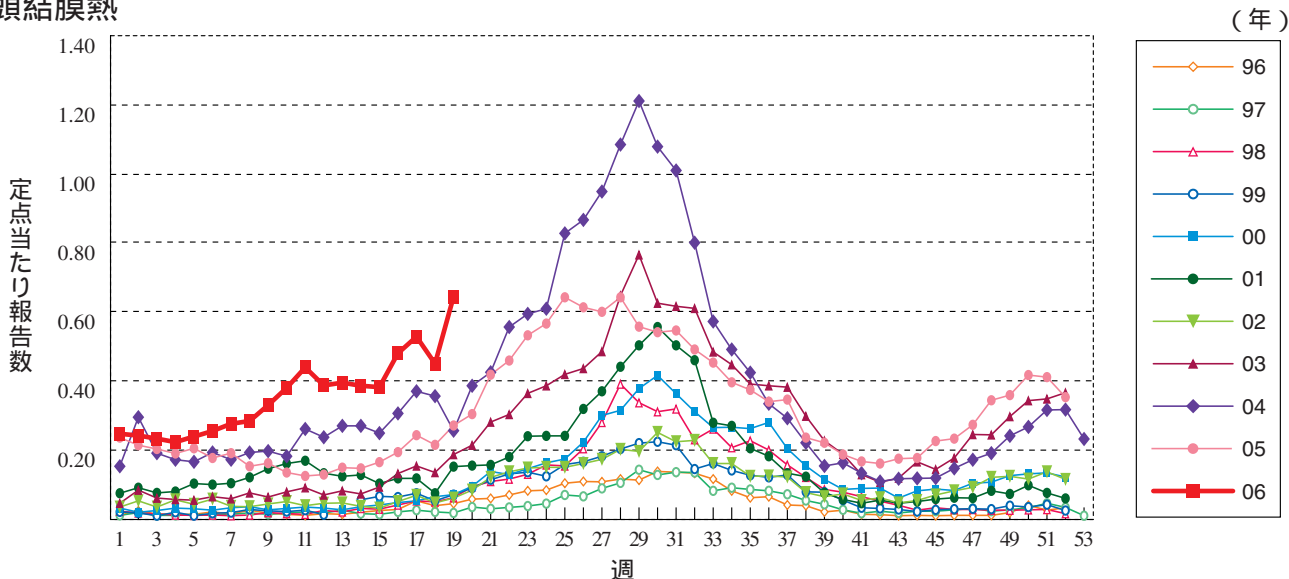


グラフ総覧(19週)

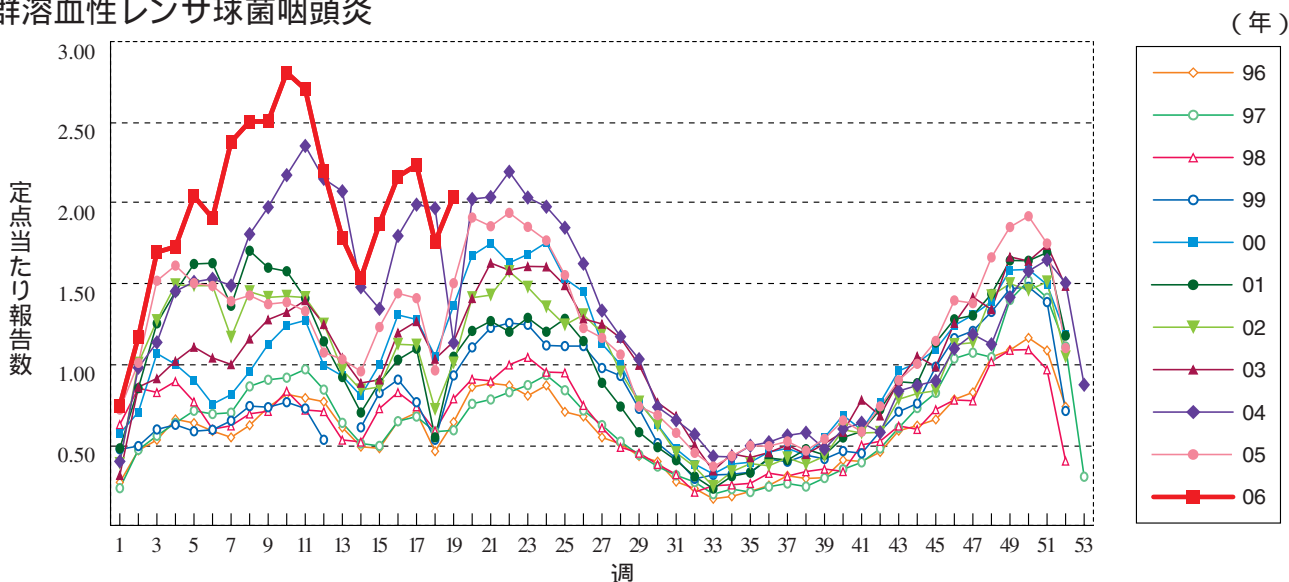
インフルエンザ



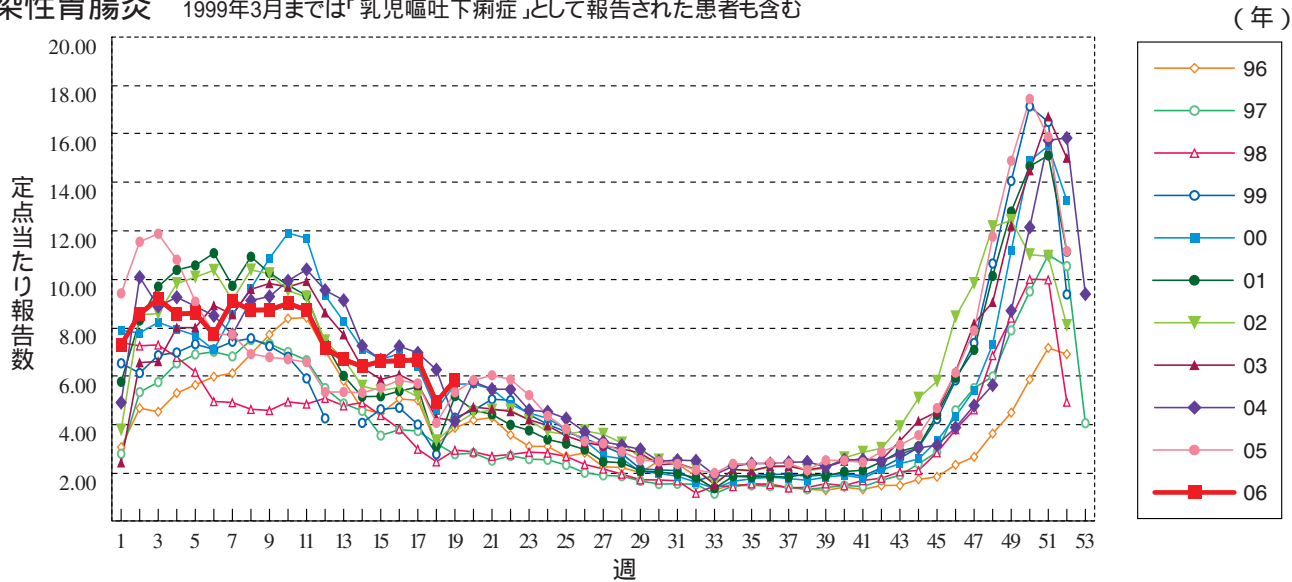
咽頭結膜熱



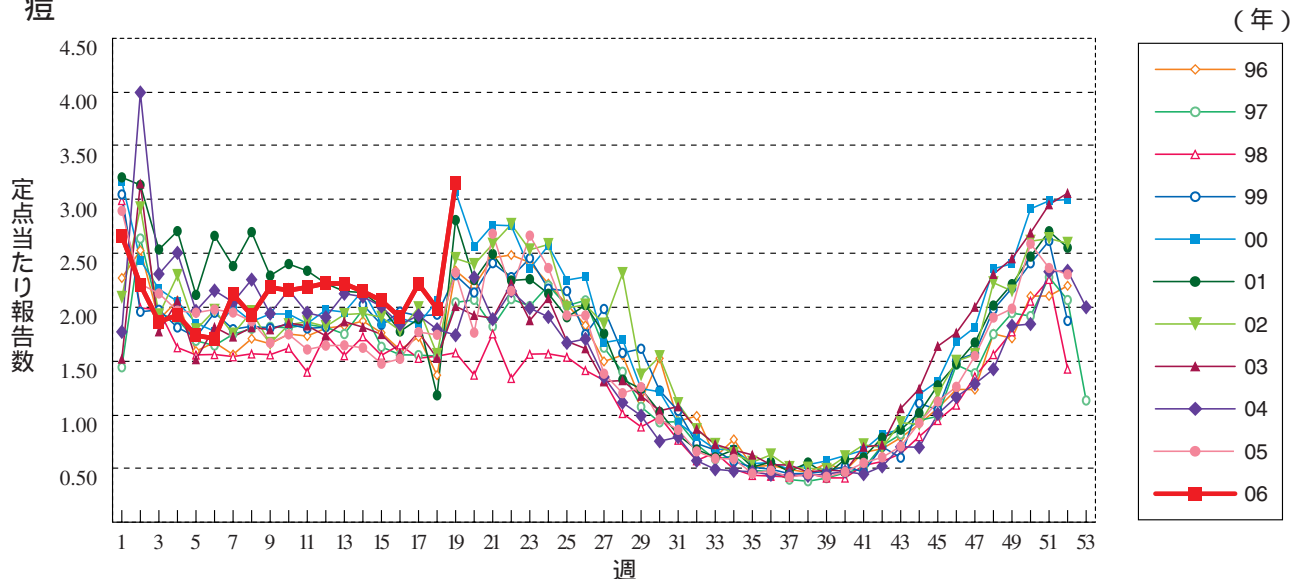
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



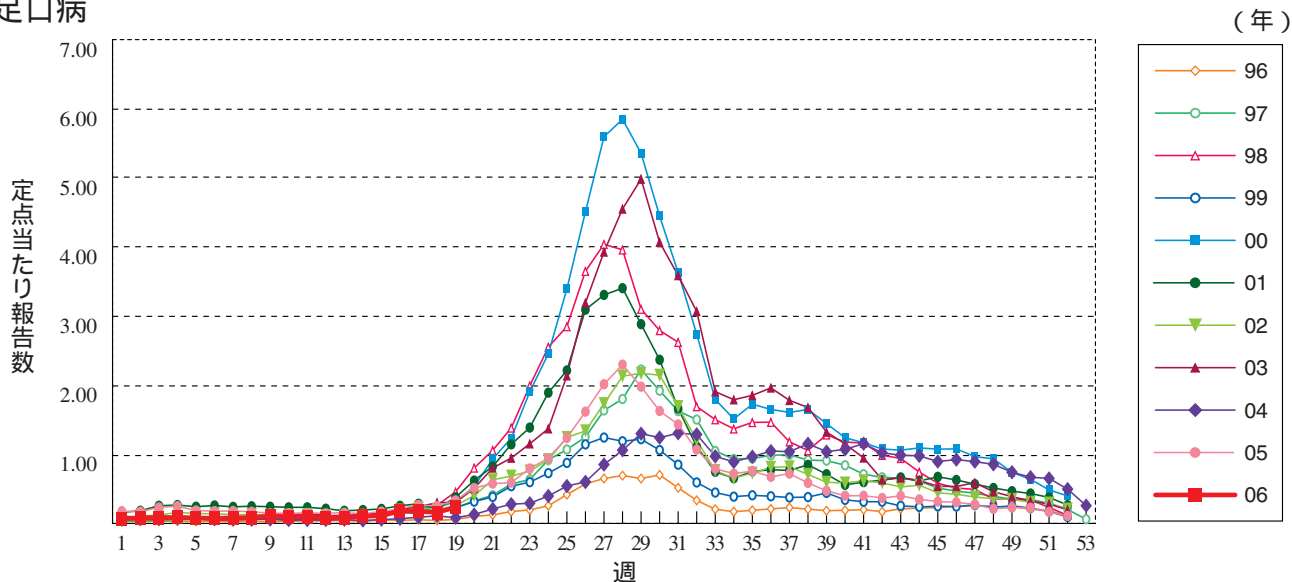
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



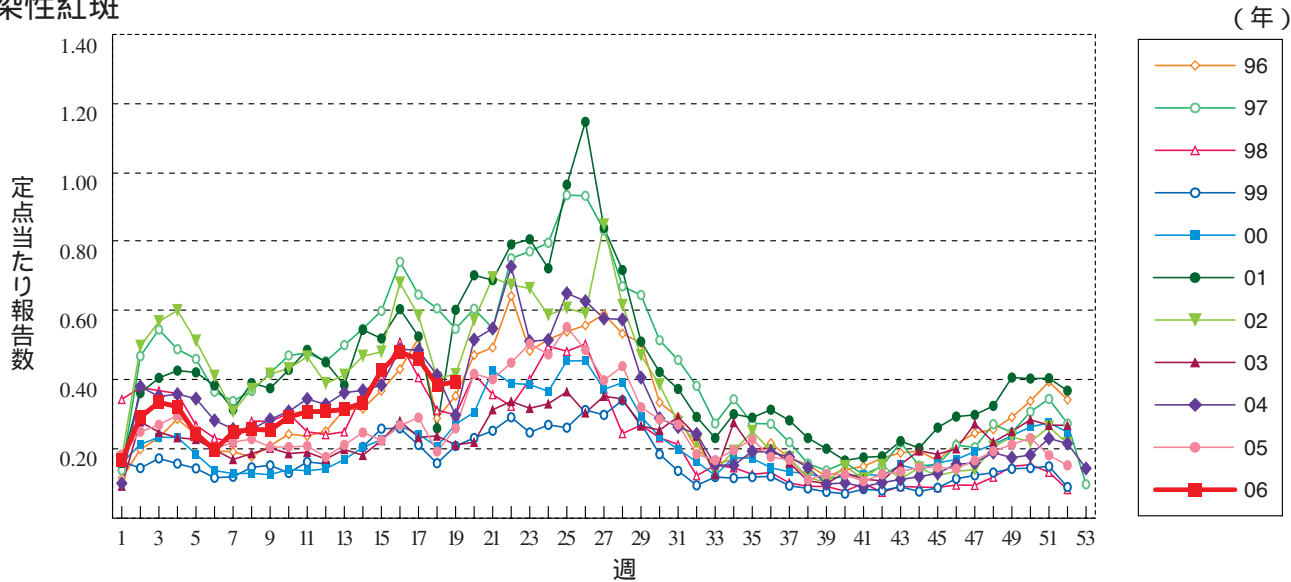
水痘



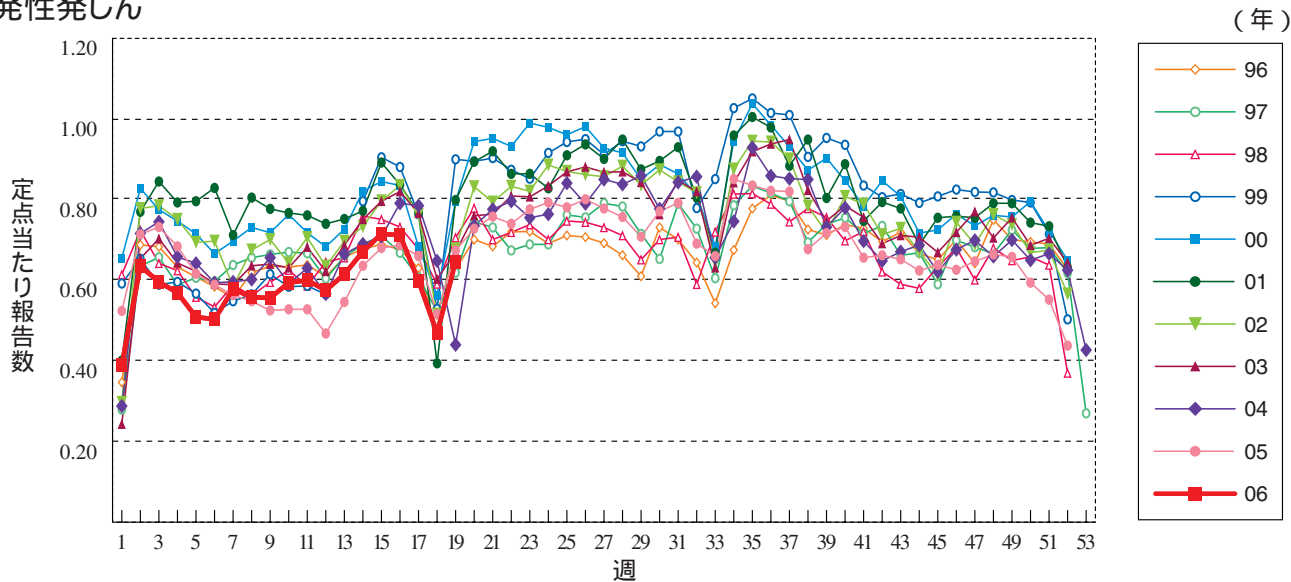
手足口病



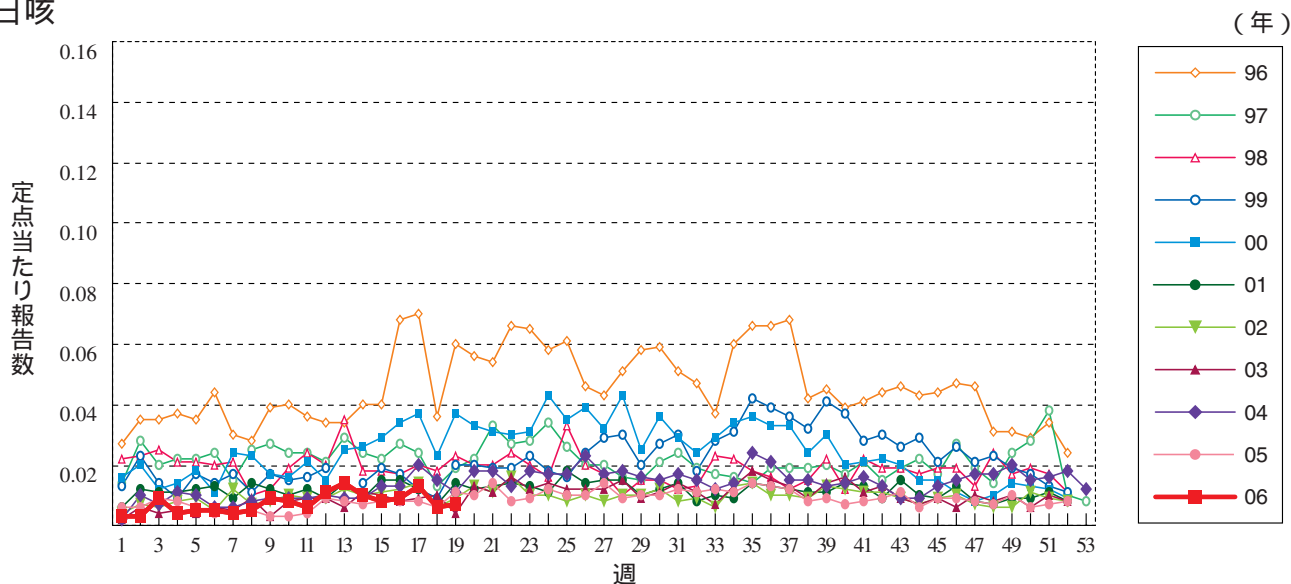
伝染性紅斑



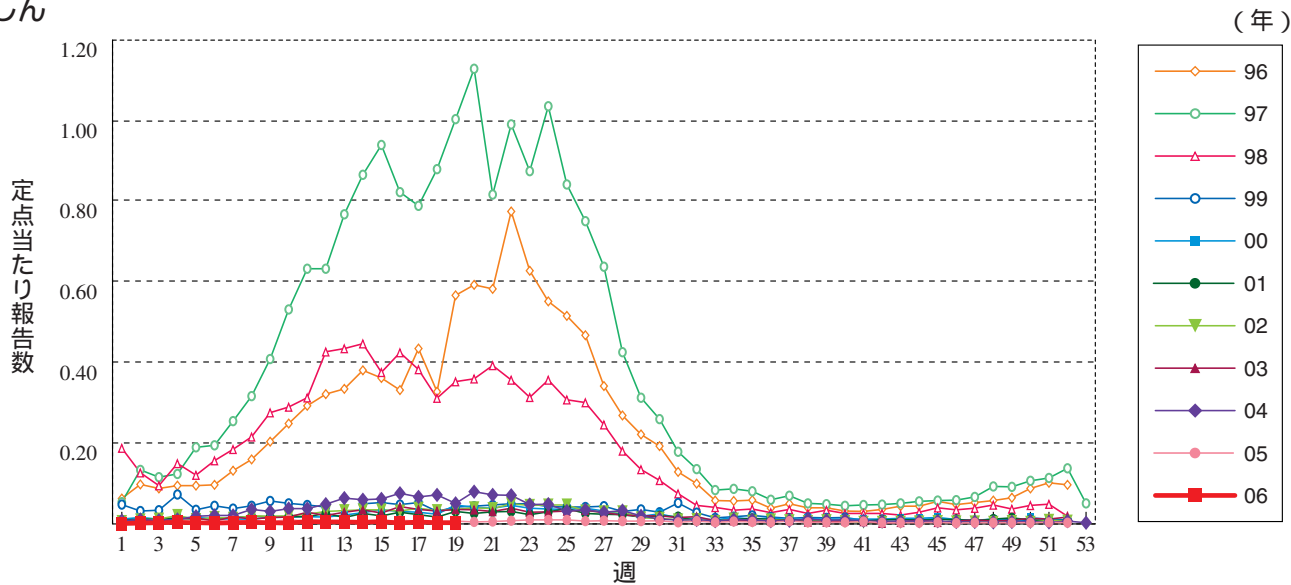
突発性発しん



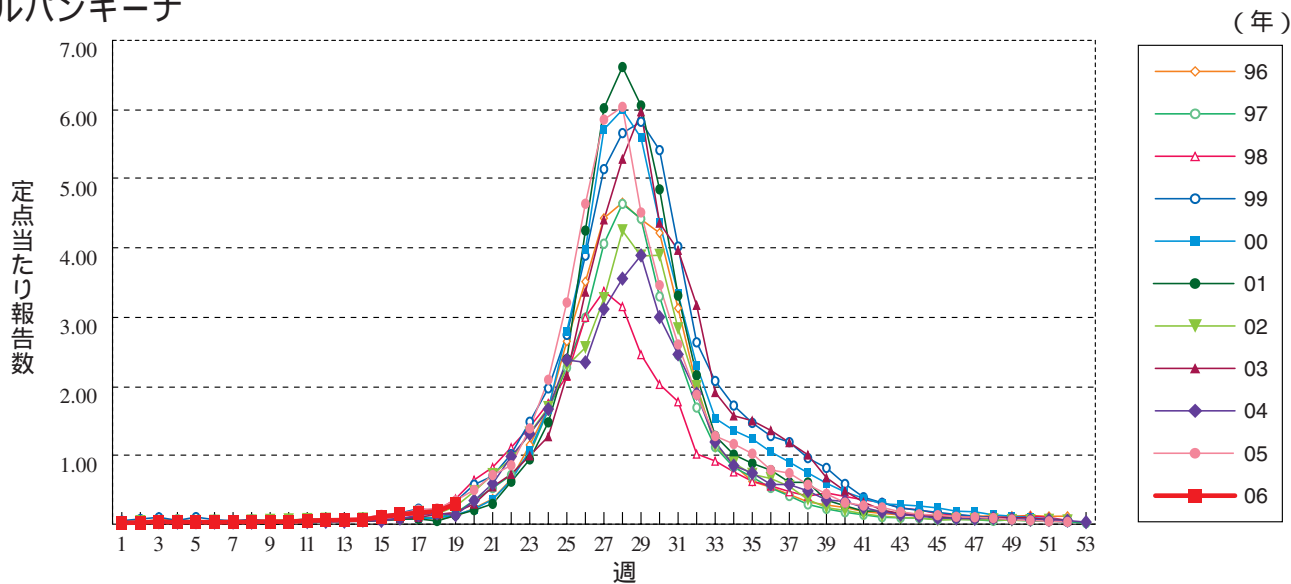
百日咳



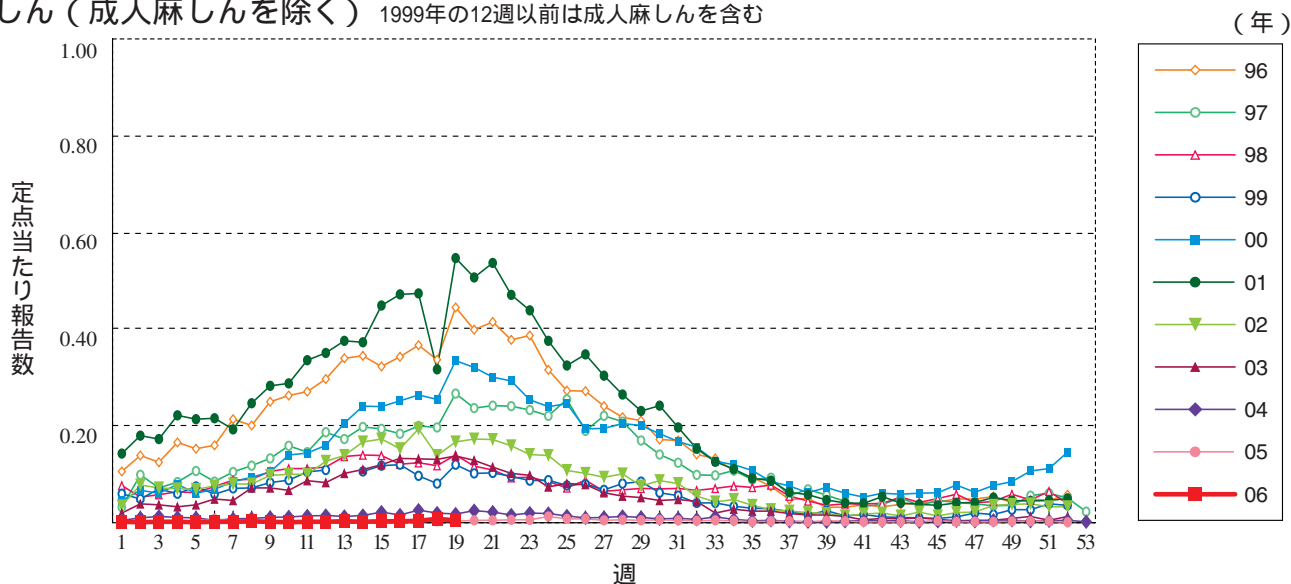
風しん



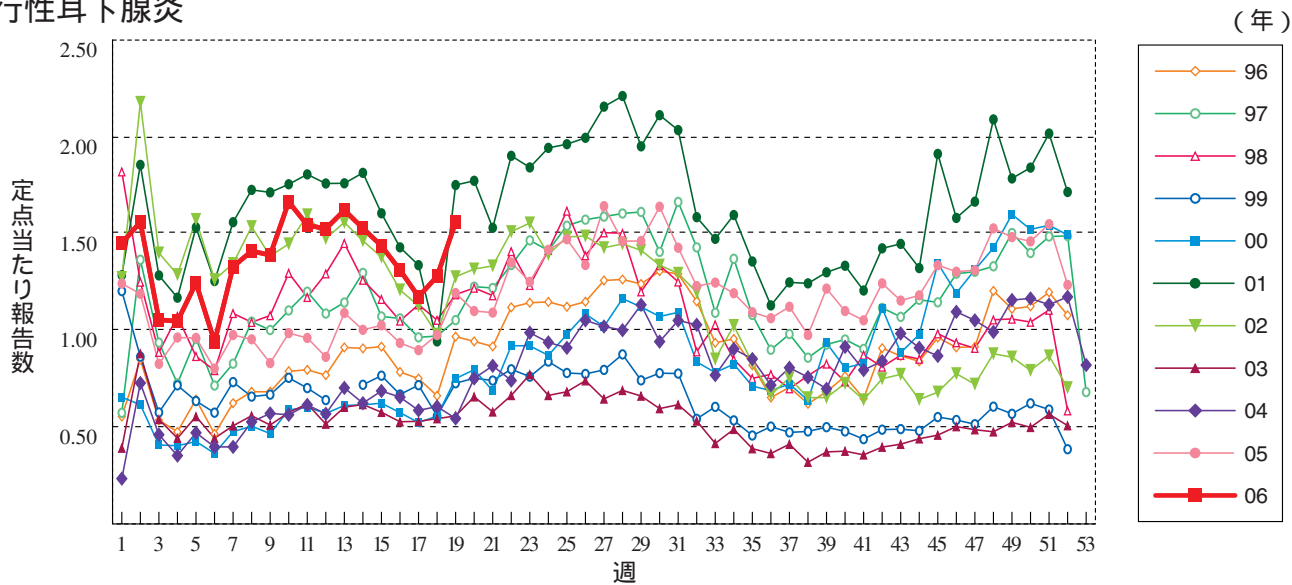
ヘルパンギーナ



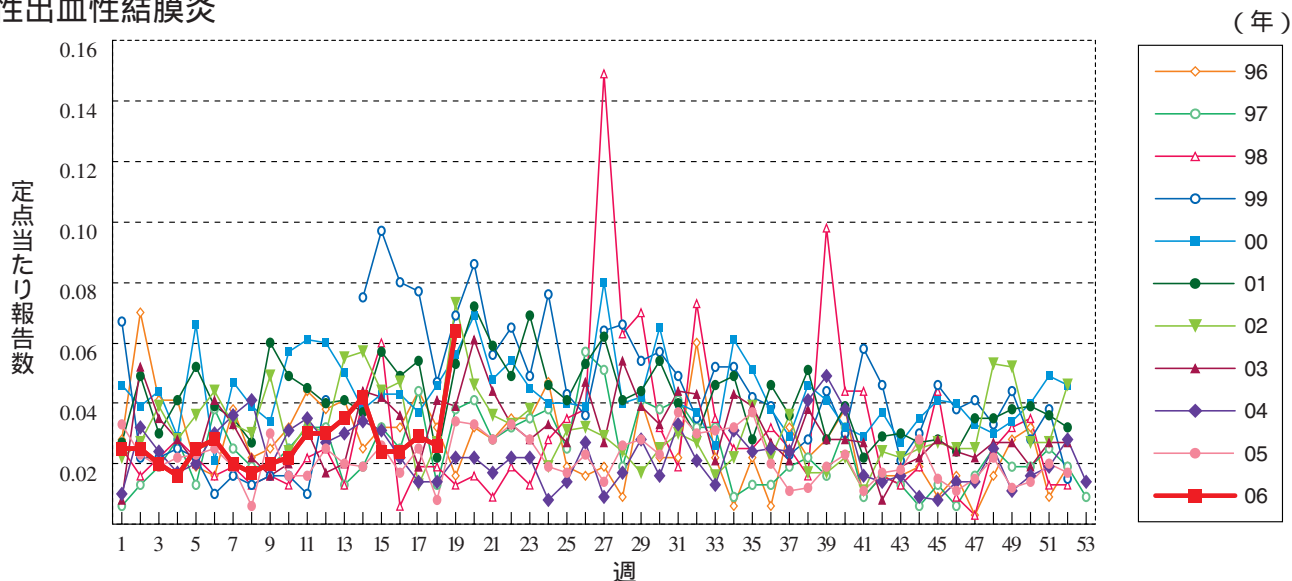
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



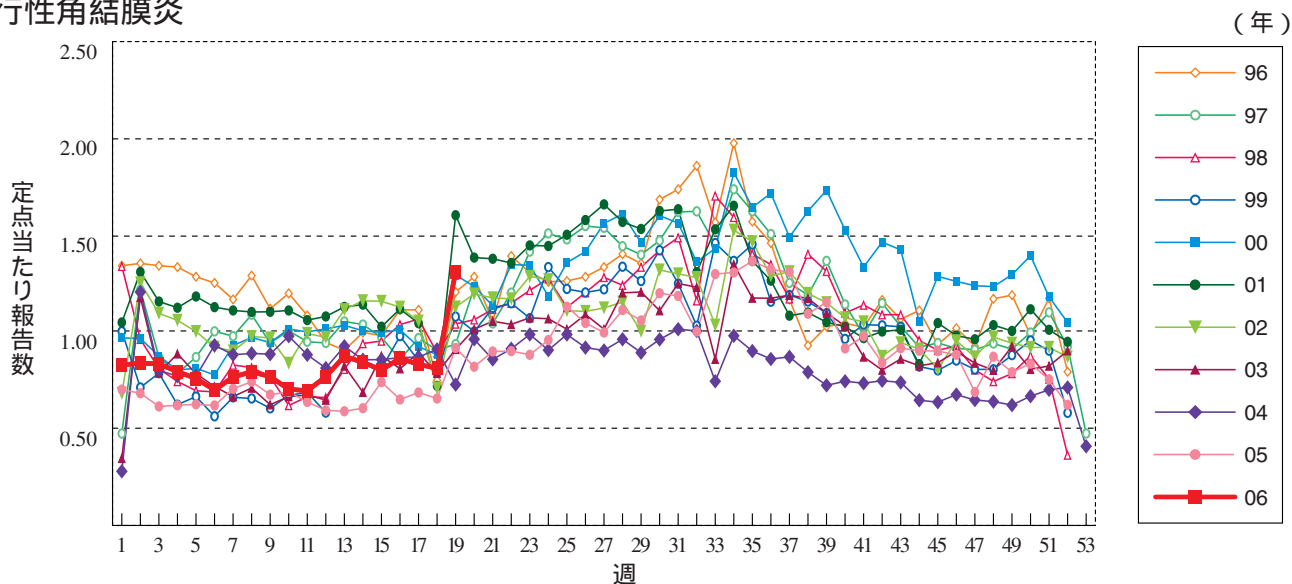
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

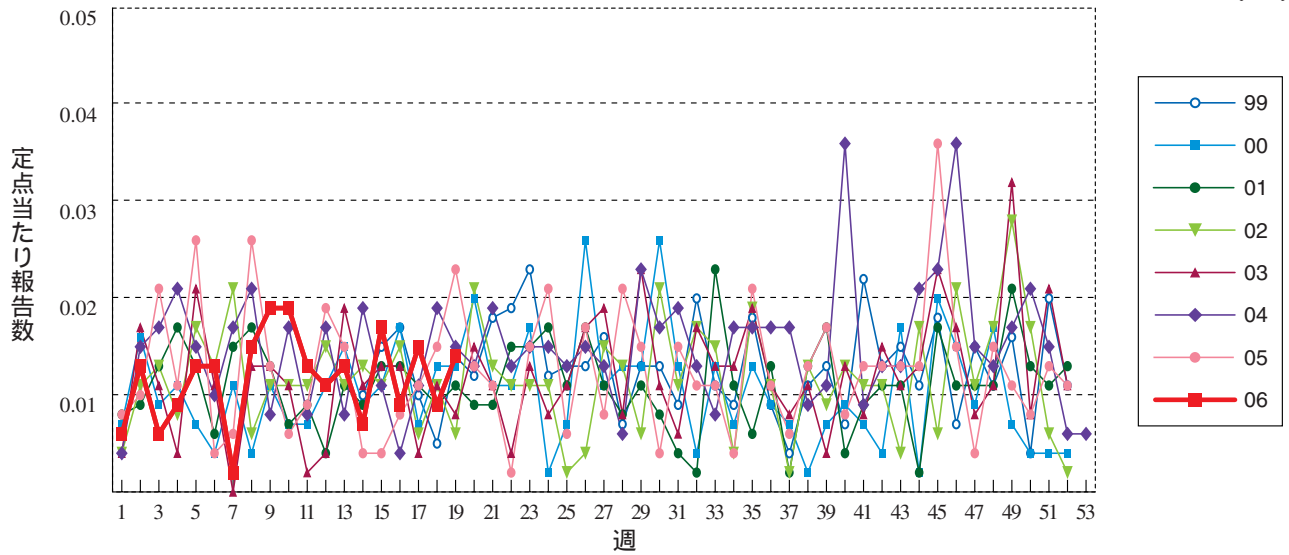


流行性角結膜炎



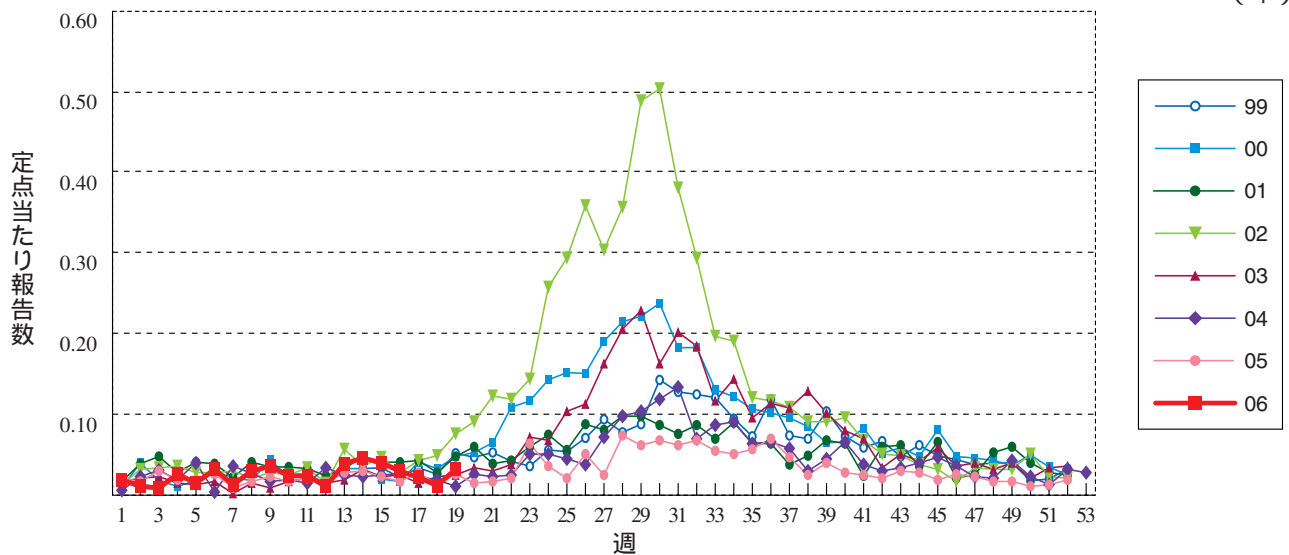
細菌性髄膜炎

(年)



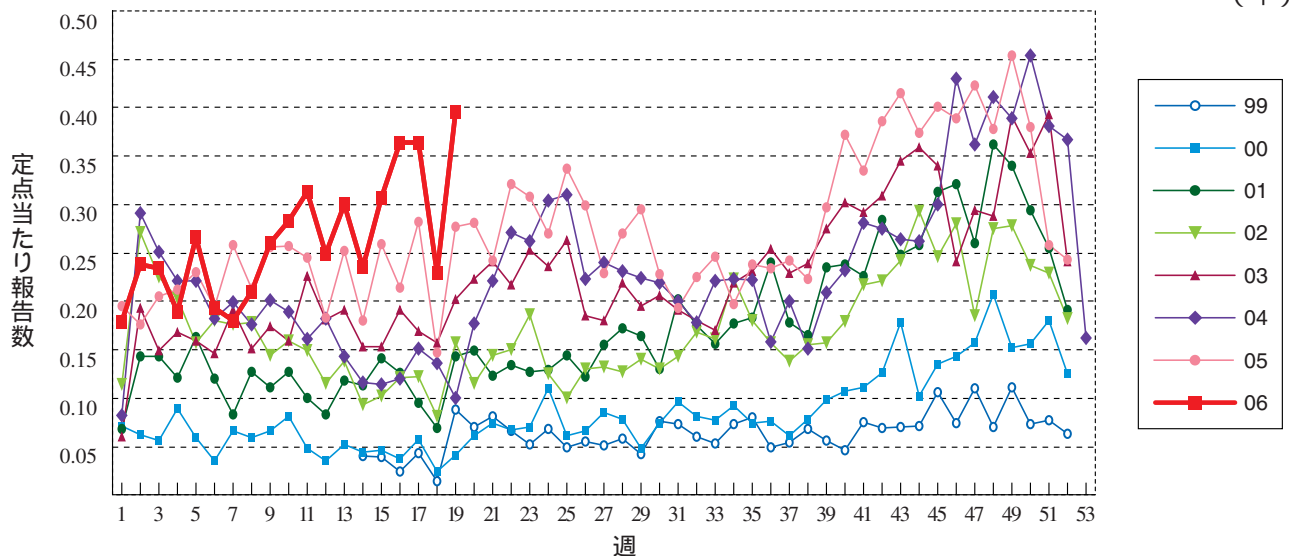
無菌性髄膜炎

(年)



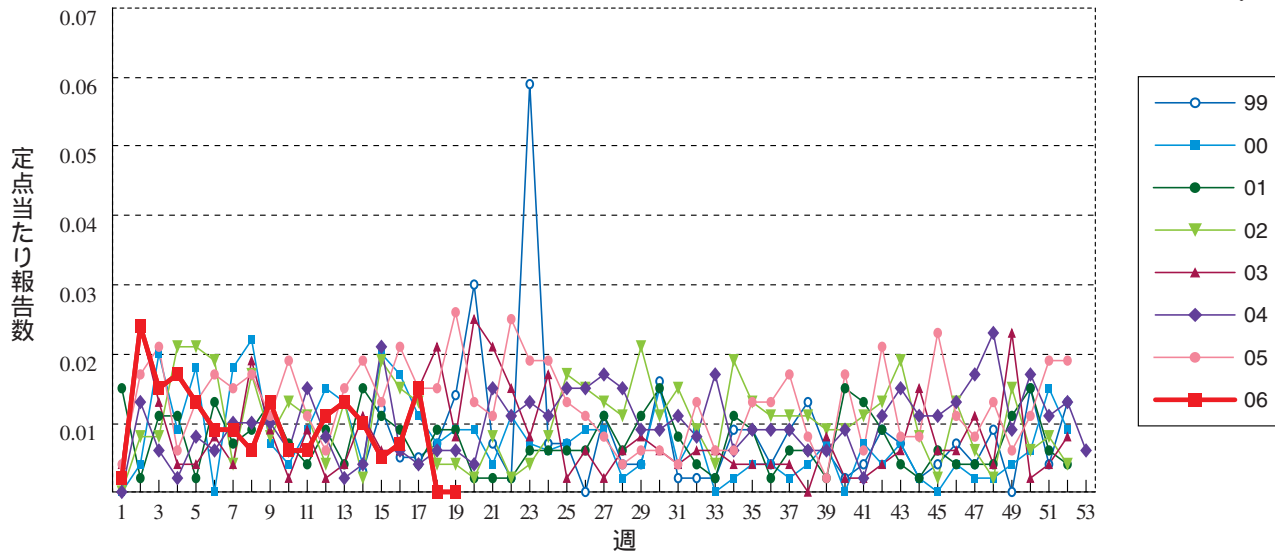
マイコプラズマ肺炎

(年)



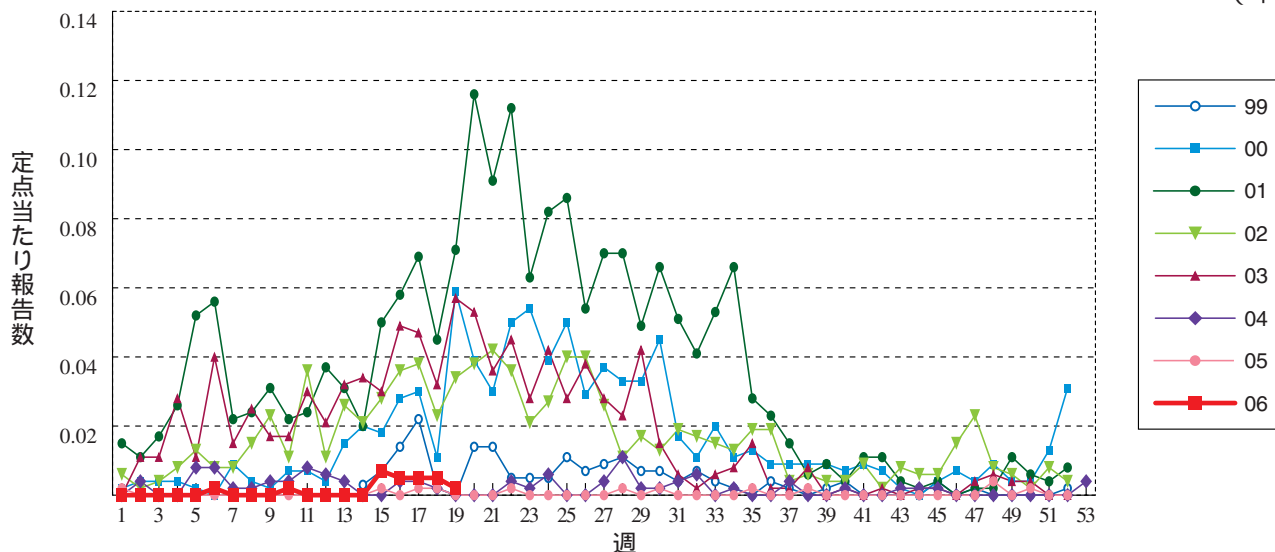
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



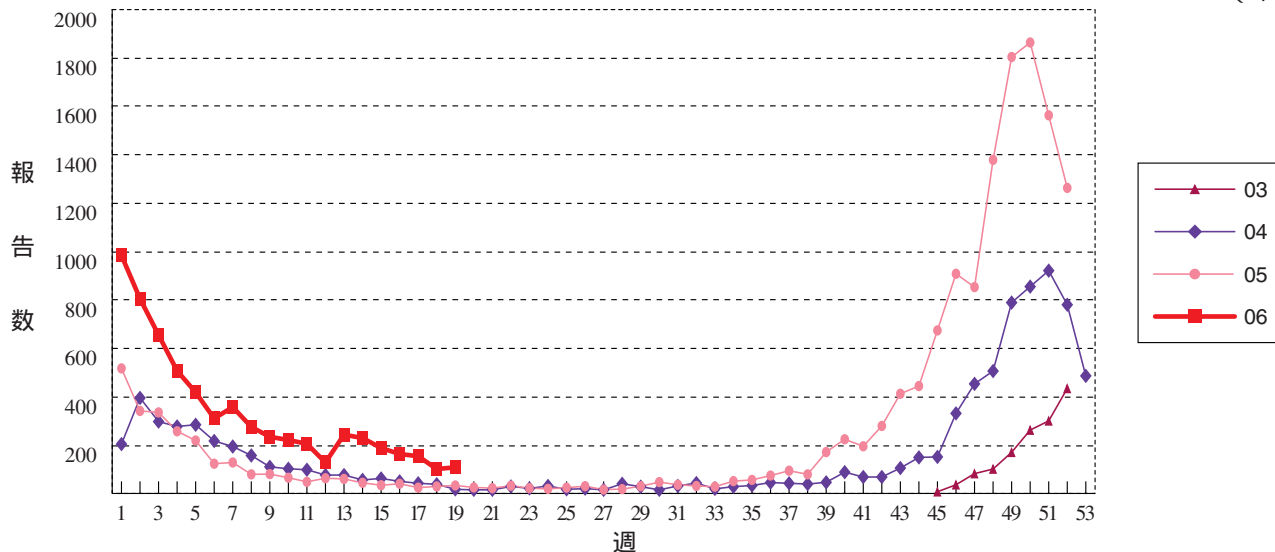
成人麻疹

(年)



RSウイルス感染症 定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。

(年)





19週のデータ

注)表中の報告数は5月18日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されず、
2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

2006年19週

	エボラ出血熱		クリミア ・コンゴ出血熱		重症急性呼吸器 症候群*		痘 そう		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		コレラ	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	15
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	細菌性赤痢		ジフテリア		腸チフス		パラチフス		腸管出血性大腸菌感染症		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		エキノコックス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	5	166	-	-	2	35	2	12	30	263	2	29	-	-	5	154	-	9
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	7	-	-	-	8	-	9
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	3	-	2	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	2	-	-	-	-	-	-	11	11	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	1	1	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	6	-	-	-	1	-	-	-	13	-	-	-	-	-	6	-	-
千葉県	1	34	-	-	-	4	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	1	28	-	-	-	12	1	9	4	23	-	-	-	-	-	19	-	-
神奈川県	-	6	-	-	-	5	-	-	-	21	-	5	-	-	-	8	-	-
新潟県	-	7	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	6	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-
愛知県	1	9	-	-	-	2	1	1	2	20	-	3	-	-	-	13	-	-
三重県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	6	-	-
大阪府	1	35	-	-	1	5	-	-	2	22	-	-	-	-	1	24	-	-
兵庫県	1	11	-	-	-	-	-	-	1	10	-	1	-	-	-	10	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	11	-	-
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-	1	7	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	4	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	4	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	8	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	-	1	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	黄熱		オウム病		回帰熱		Q熱		狂犬病		高病原性鳥インフルエンザ		コクシジオイデス症		サル痘		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	炭 疽		つつが虫病		デング熱		ニパウイルス 感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	6	41	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス感染症		レジオネラ症		レプトスピラ症		アメーバ赤痢	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	3	14	-	-	-	-	-	-	4	114	-	-	10	232
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	5
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	1	6
千葉県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	10
東京都	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	1	16	-	-	1	58
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	16
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9
愛知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	1	17
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	2	34
兵庫県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	1	17
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。
 **ウエストナイル脳炎および日本脳炎を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプトスポリジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	80	-	78	-	6	2	63	4	50	15	394	2	25	-	7	-	-
北海道	-	4	-	1	-	-	-	5	-	4	-	13	-	1	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	1	-	2	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	2	-	5	-	-	1	1	-	2	-	13	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	3	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	3	-	-	-	3	-	1	1	10	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	1	-	10	-	-	-	2	-	4	-	17	-	-	-	-	-	-
東京都	-	15	-	4	-	4	-	8	-	5	8	138	1	9	-	1	-	-
神奈川県	-	4	-	1	-	1	-	6	-	3	-	19	-	1	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	2	-	-	1	4	-	-	-	3	-	5	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	3	-	1	-	-	-	2	1	2	-	5	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	4	-	3	-	-	-	1	-	6	-	30	1	2	-	1	-	-
三重県	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
京都府	-	2	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	7	-	5	-	1	-	4	-	2	3	41	-	3	-	-	-	-
兵庫県	-	9	-	4	-	-	-	1	2	3	-	13	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	2	-	2	-	-	-	2	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-
広島県	-	2	-	4	-	-	-	4	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
山口県	-	1	-	1	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2006年19週

	梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	8	199	1	22	-	-	-	26
北海道	-	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	4	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	3	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	2	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	6	-	3	-	-	-	-
東京都	3	32	-	2	-	-	-	3
神奈川県	-	4	-	2	-	-	-	5
新潟県	1	3	1	1	-	-	-	1
富山県	-	1	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	20	-	1	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	2	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	1	-	-	-	1
大阪府	1	12	-	1	-	-	-	3
兵庫県	-	7	-	-	-	-	-	1
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-
広島県	-	3	-	1	-	-	-	-
山口県	-	7	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	2	-	-	-	-	-	-
香川県	-	4	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	1	10	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	14	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	2	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	5	-	1	-	-	-	-
熊本県	1	13	-	2	-	-	-	1
大分県	-	2	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	2	-	2	-	-	-	-
鹿児島県	-	8	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-

*高病原性鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	2655	0.61	1940	0.65	6130	2.04	17533	5.83	9485	3.15	710	0.24	1188	0.40	1943	0.65	21	0.01
北海道	434	1.93	86	0.60	536	3.75	527	3.69	391	2.73	3	0.02	25	0.17	71	0.50	-	-
青森県	84	1.29	6	0.14	50	1.19	142	3.38	77	1.83	2	0.05	40	0.95	25	0.60	-	-
岩手県	91	1.44	2	0.05	44	1.13	185	4.74	55	1.41	4	0.10	6	0.15	17	0.44	-	-
宮城県	57	0.58	17	0.28	150	2.46	468	7.67	148	2.43	20	0.33	16	0.26	30	0.49	-	-
秋田県	108	1.96	14	0.40	69	1.97	199	5.69	98	2.80	2	0.06	12	0.34	14	0.40	-	-
山形県	8	0.17	11	0.37	70	2.33	173	5.77	95	3.17	2	0.07	28	0.93	22	0.73	-	-
福島県	79	0.99	18	0.38	109	2.27	324	6.75	171	3.56	2	0.04	51	1.06	21	0.44	3	0.06
茨城県	6	0.10	24	0.33	281	3.85	211	2.89	254	3.48	5	0.07	32	0.44	31	0.42	-	-
栃木県	-	-	11	0.24	66	1.43	128	2.78	127	2.76	6	0.13	5	0.11	32	0.70	-	-
群馬県	17	0.17	10	0.16	131	2.11	399	6.44	157	2.53	6	0.10	7	0.11	54	0.87	-	-
埼玉県	9	0.04	113	0.70	466	2.89	1166	7.24	479	2.98	20	0.12	105	0.65	140	0.87	1	0.01
千葉県	26	0.13	48	0.38	310	2.42	671	5.24	388	3.03	12	0.09	76	0.59	84	0.66	1	0.01
東京都	9	0.05	88	0.63	269	1.92	782	5.59	371	2.65	15	0.11	57	0.41	84	0.60	-	-
神奈川県	33	0.12	138	0.69	414	2.06	1273	6.33	654	3.25	19	0.09	107	0.53	134	0.67	1	0.00
新潟県	69	0.73	61	0.98	263	4.24	537	8.66	257	4.15	23	0.37	19	0.31	33	0.53	-	-
富山県	14	0.29	9	0.31	81	2.79	246	8.48	95	3.28	4	0.14	6	0.21	15	0.52	-	-
石川県	21	0.44	10	0.34	84	2.90	246	8.48	117	4.03	5	0.17	2	0.07	12	0.41	-	-
福井県	12	0.38	32	1.52	60	2.86	241	11.48	30	1.43	4	0.19	3	0.14	16	0.76	-	-
山梨県	10	0.26	-	-	33	1.43	74	3.22	83	3.61	2	0.09	4	0.17	4	0.17	-	-
長野県	14	0.16	26	0.47	133	2.42	315	5.73	242	4.40	3	0.05	21	0.38	26	0.47	1	0.02
岐阜県	24	0.30	72	1.36	45	0.85	157	2.96	104	1.96	53	1.00	22	0.42	19	0.36	-	-
静岡県	3	0.03	28	0.33	171	2.04	477	5.68	314	3.74	32	0.38	59	0.70	58	0.69	-	-
愛知県	49	0.26	96	0.53	336	1.85	764	4.20	696	3.82	157	0.86	59	0.32	138	0.76	-	-
三重県	43	0.59	27	0.60	104	2.31	480	10.67	136	3.02	41	0.91	28	0.62	34	0.76	-	-
滋賀県	27	0.53	24	0.75	17	0.53	135	4.22	75	2.34	14	0.44	5	0.16	19	0.59	-	-
京都府	11	0.09	51	0.72	68	0.96	474	6.68	131	1.85	11	0.15	30	0.42	23	0.32	-	-
大阪府	19	0.10	135	0.74	317	1.74	1099	6.04	593	3.26	32	0.18	26	0.14	126	0.69	1	0.01
兵庫県	299	1.55	152	1.19	168	1.31	921	7.20	470	3.67	40	0.31	45	0.35	88	0.69	2	0.02
奈良県	36	0.86	22	0.63	65	1.86	160	4.57	84	2.40	1	0.03	3	0.09	15	0.43	-	-
和歌山県	10	0.20	26	0.84	48	1.55	182	5.87	85	2.74	-	-	6	0.19	27	0.87	-	-
鳥取県	16	0.73	14	0.74	67	3.53	158	8.32	64	3.37	2	0.11	13	0.68	9	0.47	-	-
島根県	5	0.14	20	0.87	17	0.74	134	5.83	65	2.83	1	0.04	25	1.09	16	0.70	1	0.04
岡山県	168	2.07	43	0.80	47	0.87	282	5.22	131	2.43	19	0.35	11	0.20	26	0.48	-	-
広島県	78	0.68	47	0.65	102	1.42	451	6.26	176	2.44	2	0.03	15	0.21	40	0.56	-	-
山口県	13	0.22	41	0.87	112	2.38	375	7.98	140	2.98	6	0.13	23	0.49	41	0.87	1	0.02
徳島県	55	1.45	8	0.35	16	0.70	97	4.22	106	4.61	23	1.00	3	0.13	18	0.78	3	0.13
香川県	84	1.65	39	1.22	23	0.72	172	5.38	54	1.69	29	0.91	9	0.28	14	0.44	-	-
愛媛県	178	2.92	32	0.86	57	1.54	222	6.00	126	3.41	18	0.49	5	0.14	34	0.92	-	-
高知県	5	0.10	5	0.16	25	0.81	132	4.26	110	3.55	8	0.26	5	0.16	18	0.58	1	0.03
福岡県	88	0.45	122	1.02	256	2.13	751	6.26	411	3.43	7	0.06	59	0.49	89	0.74	4	0.03
佐賀県	6	0.15	16	0.70	29	1.26	95	4.13	120	5.22	3	0.13	7	0.30	30	1.30	-	-
長崎県	72	1.03	35	0.80	37	0.84	157	3.57	121	2.75	2	0.05	28	0.64	23	0.52	-	-
熊本県	34	0.43	30	0.63	67	1.40	285	5.94	183	3.81	15	0.31	41	0.85	46	0.96	1	0.02
大分県	47	0.81	24	0.67	91	2.53	353	9.81	117	3.25	10	0.28	6	0.17	36	1.00	-	-
宮崎県	6	0.10	8	0.22	133	3.59	349	9.43	210	5.68	2	0.05	21	0.57	43	1.16	-	-
鹿児島県	51	0.55	76	1.36	65	1.16	258	4.61	180	3.21	16	0.29	10	0.18	36	0.64	-	-
沖縄県	127	2.19	23	0.68	28	0.82	106	3.12	194	5.71	7	0.21	2	0.06	12	0.35	-	-

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	10	0.00	877	0.29	15	0.00	4687	1.56	40	0.06	823	1.31	6	0.01	14	0.03	173	0.40
北海道	-	-	3	0.02	-	-	264	1.85	1	0.03	22	0.76	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	3	0.07	-	-	77	1.83	-	-	12	1.09	-	-	-	-	5	0.83
岩手県	-	-	22	0.56	-	-	45	1.15	-	-	18	1.50	-	-	-	-	15	0.79
宮城県	-	-	1	0.02	-	-	101	1.66	4	0.33	10	0.83	-	-	-	-	8	0.67
秋田県	-	-	18	0.51	-	-	18	0.51	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	2	0.07	-	-	37	1.23	-	-	2	0.25	-	-	1	0.10	4	0.40
福島県	-	-	6	0.13	-	-	108	2.25	-	-	22	1.83	-	-	-	-	3	0.50
茨城県	-	-	4	0.05	8	0.11	152	2.08	15	1.25	28	2.33	-	-	-	-	3	0.50
栃木県	-	-	3	0.07	-	-	63	1.37	-	-	63	5.25	-	-	-	-	3	0.43
群馬県	-	-	43	0.69	-	-	97	1.56	-	-	36	2.57	-	-	2	0.25	4	0.50
埼玉県	1	0.01	71	0.44	-	-	238	1.48	2	0.05	34	0.85	-	-	-	-	18	2.00
千葉県	1	0.01	29	0.23	5	0.04	103	0.80	1	0.03	22	0.73	1	0.11	-	-	-	-
東京都	1	0.01	55	0.39	-	-	89	0.64	1	0.07	23	1.64	-	-	1	0.04	1	0.04
神奈川県	1	0.00	23	0.11	-	-	263	1.31	6	0.15	70	1.71	1	0.10	-	-	6	0.60
新潟県	-	-	17	0.27	-	-	237	3.82	-	-	4	0.40	-	-	-	-	9	0.69
富山県	-	-	8	0.28	-	-	47	1.62	-	-	7	1.00	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	8	0.28	-	-	36	1.24	-	-	4	0.57	-	-	-	-	8	1.60
福井県	-	-	5	0.24	-	-	16	0.76	-	-	3	1.00	-	-	-	-	1	0.25
山梨県	-	-	5	0.22	-	-	98	4.26	1	0.13	9	1.13	-	-	-	-	2	0.20
長野県	1	0.02	2	0.04	-	-	201	3.65	-	-	25	2.27	-	-	-	-	3	0.27
岐阜県	-	-	9	0.17	-	-	26	0.49	-	-	7	0.70	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	14	0.17	-	-	198	2.36	-	-	11	0.55	1	0.10	2	0.20	4	0.40
愛知県	-	-	22	0.12	1	0.01	150	0.82	1	0.03	22	0.63	-	-	-	-	9	0.69
三重県	-	-	10	0.22	-	-	93	2.07	1	0.08	1	0.08	-	-	-	-	1	0.13
滋賀県	-	-	8	0.25	-	-	29	0.91	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	14	0.20	-	-	58	0.82	1	0.06	19	1.12	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	81	0.45	-	-	204	1.12	-	-	36	0.86	-	-	-	-	21	1.91
兵庫県	-	-	19	0.15	-	-	208	1.63	2	0.06	52	1.49	-	-	-	-	1	0.13
奈良県	-	-	6	0.17	-	-	25	0.71	1	0.11	3	0.33	-	-	1	0.17	3	0.50
和歌山県	-	-	-	-	-	-	57	1.84	-	-	4	1.00	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	-	-	25	1.32	-	-	81	4.26	-	-	2	0.67	-	-	1	0.20	4	0.80
島根県	1	0.04	2	0.09	1	0.04	36	1.57	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	19	0.35	-	-	87	1.61	-	-	13	1.08	-	-	-	-	8	1.60
広島県	-	-	4	0.06	-	-	81	1.13	-	-	38	2.00	-	-	1	0.05	6	0.29
山口県	-	-	46	0.98	-	-	123	2.62	1	0.11	19	2.11	-	-	-	-	3	0.33
徳島県	-	-	13	0.57	-	-	63	2.74	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	4	0.13	-	-	43	1.34	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	40	1.08	-	-	40	1.08	2	0.25	28	3.50	1	0.17	-	-	5	0.83
高知県	-	-	9	0.29	-	-	32	1.03	-	-	4	1.33	1	0.14	-	-	-	-
福岡県	-	-	40	0.33	-	-	106	0.88	-	-	37	1.42	-	-	-	-	4	0.27
佐賀県	-	-	17	0.74	-	-	24	1.04	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	7	0.16	-	-	58	1.32	-	-	15	1.88	-	-	-	-	1	0.10
熊本県	-	-	47	0.98	-	-	57	1.19	-	-	32	3.56	-	-	-	-	1	0.07
大分県	-	-	31	0.86	-	-	79	2.19	-	-	2	0.40	-	-	1	0.09	1	0.09
宮崎県	1	0.03	19	0.51	-	-	83	2.24	-	-	13	3.25	-	-	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	29	0.52	-	-	266	4.75	-	-	9	1.29	-	-	3	0.25	6	0.50
沖縄県	-	-	14	0.41	-	-	90	2.65	-	-	25	2.50	-	-	-	-	2	0.29

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 2006年19週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数
総 数	-	-	1	0.00	108
北海道	-	-	1	0.05	17
青森県	-	-	-	-	7
岩手県	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	11
山形県	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	8
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	1
大阪府	-	-	-	-	12
兵庫県	-	-	-	-	2
奈良県	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	3
山口県	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	10
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	11

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年19週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群 (SARS)						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	12	-	-	-	-	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	6	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

感染症週報 第8巻 第19号 2006年5月26日発行
発行：国立感染症研究所
厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部
事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
T E L : 03-5285-1111
F A X : 03-5285-1129
U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
< 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。